



かながわの全ての子ども・若者の 未来を信じて



かながわの子ども・若者支援プログラム研究会

自己肯定感を高めるための支援プログラム



実 践 編

神奈川県教育委員会

◆ はじめに

神奈川県では、児童・生徒に関わる重大事案（いじめに係る自死等）が起こった場合、その時々英知を集め、一つひとつ問題を解決しながら、一人ひとりの児童・生徒が守られ、育まれるよう教育環境の整備に力を入れてきました。

例えば、関係機関との連携強化による課題への即時的・重点的な対応としてスクールソーシャルワーカー（以下「SSW」）の配置とその活用、教育相談体制の充実による児童・生徒への直接的支援としてのスクールカウンセラー（以下「SC」）の配置とその活用、さらには民間・地域人材の活用による学校、児童・生徒への間接的支援としてファミリー・コミュニケーション運動や元気な学校づくりの推進等の取り組みを行ってきました。

こうした取組を進める一方で、児童・生徒に関わる重大事案への対応が、これまで本県が培ってきた方法や施策だけでは難しくなっている状況が散見されるようになってきました。そして、平成 27 年 2 月、川崎市において中学校 1 年生が仲間との関係の中で、命を奪われる事案が発生しました。学校や地域等で児童・生徒に関わる方々からは、「子どもたちに関わる時間がない」「連携といっても、実際にどのように連携すれば良いか分からない」といった声が聞こえてきました。

この実践編は、「自己肯定感を高めるための支援プログラム」をもとに、幼稚園、小・中・高等学校、特別支援学校までの成長段階に分けて、それぞれの子どもたちへの支援の実践例を取りまとめたものです。学校は、子どもたちが大人として成長していくうえで、家庭や地域と同様に、重要な「学びの場」です。子どもたちの良い面を価値付けて、活躍できる場所、安全・安心を感じることで居場所を学校につくらなければなりません。

一方、学校における子どもたちの、他者との関わりを見ると、それはかなり限られた範囲で行われているといえます。そして、子どもたちにとって家族以外に密接に関わる大人として教職員が存在します。学校は、社会の縮図といわれることがあります。そうであるならば、多様なものの見方や考え方をもった大人の存在が必要になります。多様なものの見方や考え方をもった大人として、教職員も自らの個性を生かしつつ、子どもたちに関わることで、役割分担をしたチームとしての支援を行うことができます。

教職員も一人の人間として子どもたちと関わります。その際に、教職員自身の個性を生かして関わることにより、教職員の自己有用感、自己肯定感も高まります。それは子どもたちに、自己肯定感をもった教職員一人ひとりが生き生きと働く姿を見せることにもなるのです。

この実践編を参考に、今後の子ども・若者たちへの支援に活用していただければと思います。

目次

はじめに

I 実践例の見方について . . . P 4

II 実践例

A 幼稚園編

①『関わりがもてない園児にどう寄り添う？』（生活指導編）
. . . P19

B 小学校編

②『注意力散漫？好奇心旺盛？関わり方は？』（生活指導編）
. . . P23

③『傷つける言葉の裏にあるものは、何でしょうか？』（生活指導編）
. . . P27

④『困ったら相談するよう促していますか？』（生活指導編）
. . . P31

⑤『自分を認めてくれないと思っている子への
関わり方は？』（生活指導編）
. . . P35

⑥『見通しをもたせた学習を進めさせていますか？』（教科指導編）
. . . P39

⑦『子どもたちがワクワクするような授業展開が
できていますか？』（教科指導編）
. . . P43

C 中学校編

⑧『支援なしで大丈夫ですか？』（生活指導編）
. . . P47

⑨『心のコントロールができるためには？』（生活指導編）
. . . P51

⑩『テストの点数や成績に固執する生徒に
どうアプローチする？』（生活指導編）
. . . P55

⑪『付けたい力は明確になっていますか？』（教科指導編）
・・・P59

⑫『授業を振り返り、次の目標をもたせていますか？』（教科指導編）
・・・P63

D 高等学校編

⑬『つまずきを受け止めるには？』（生活指導編）
・・・P67

⑭『進路選択に前向きになれるよう、
どのように関わりますか？』（生活指導編）
・・・P71

⑮『イライラを抑えたい生徒に、
どのように関わりますか？』（生活指導編）
・・・P75

E 特別支援学校編

⑯『発表に抵抗感をもっている生徒に、
どのように関わればよいのでしょうか？』
・・・P79

F SSW（スクールソーシャルワーク）編

⑰『家庭環境の課題を抱える生徒への支援』
・・・P83



I 実践例の見方について

理論編に示した自己肯定感を高めるためのプログラムの「**見つける→気づく→関わる**」の3つのプロセスに基づいて、校種別に整理し、実践例を示しました。自己肯定感を高めるためのプログラムを学校において実践するには、それぞれの柱において次のようなポイントに留意することが必要です。（理論編も参照し「**見つける→気づく→関わる**」を意識して読んでください。）

この実践例は、次の2つの観点から作成しています。

- ①**生活指導**……子どもたちの学校生活における、ちょっとした変化を見落とさずに関わり続けることを意識した実践例。
- ②**教科指導**……授業において、子どもたちのちょっとした変化を見落とさずに関わり続けるとともに、教職員が行う授業における工夫・改善の視点（PDCAサイクルを基にした単元構成）も意識した実践例。

見つける

子どもたちの自己肯定感を高めるために、日常から子どもたちのありのままの状況を肯定的に捉えるポイントを見つけます。

● 日常の子どもの状況を捉える ●

子どもの日常の状況を捉えておきます。

『発見シート』の活用

● 肯定的に捉えるポイントを見つける ●

子どもの課題を教職員が消極的・否定的に捉えたまま関わるのでは、子どもが「（教職員が感じている）課題が改善されない限り、自分は認めてもらえない」と感じるようになります。

自分の存在そのものが認められていると感じさせ、子どもの自己肯定感を高める「関わり」を行うために、その子どもを肯定的に捉えることができる見方を見つけることが大切です。

● 発見シートを活用する ●

「（肯定的な関わりをもつための）『発見シート』」を活用して、全ての子どもを肯定的に捉えることができる見方を見つけていきます。

発見シートの右面には、「成長段階に適した指導の仕方」を示しました。日常から、子どもの心理面に配慮した指導の仕方に留意しておくことで、子どもの自己肯定感を高める土台がしっかりしたものとなります。

（使い方については、次ページを参照してください）

SC（スクールカウンセラー）やSSW（スクールソーシャルワーカー）等の専門家と相談しても良いです。



発見シート(P8～P17)の活用法



子どもを日常から肯定的に捉えながら接することで、子どもは、「ありのままの状況が受け入れられている」と感じて生活することができます。これは、自己肯定感を高めながら生活していることにつながることです。この「発見シート」を活用して、子どもの肯定的に捉えにくい特徴も肯定的に捉えるようにしていきます。

全ての子どもを肯定的に捉えましょう

1

成長段階

成長段階を校種別に示しています

2

特徴

成長段階の一般的な特徴を示しています。この特徴を参考にそれぞれの子どもの特徴をつかみます

3

肯定的に捉えることができるポイント

一見すると「できていない」と思う子どもの特徴も、発見シートのように見方を変えることで、その子どもを肯定的に捉えるポイントになります。このようにして、全ての子どもを肯定的に捉えるようにします。

左面は、理論編「成長段階別発見シート」と同じものです。

発見シート

1 成長段階

2 特徴

3 肯定的に捉えることができるポイント

その子を見守るポイントを見つけるよう！

特徴がわかるようになっています。

① 成長段階に合った指導を行う。

② 成長段階に合った指導を行う。

③ 成長段階に合った指導を行う。

④ 成長段階に合った指導を行う。

⑤ 成長段階に合った指導を行う。

⑥ 成長段階に合った指導を行う。

⑦ 成長段階に合った指導を行う。

⑧ 成長段階に合った指導を行う。

⑨ 成長段階に合った指導を行う。

⑩ 成長段階に合った指導を行う。

4 この成長段階に適した指導の仕方

この成長段階に適した指導の仕方

① 成長段階に合った指導を行う。

② 成長段階に合った指導を行う。

③ 成長段階に合った指導を行う。

④ 成長段階に合った指導を行う。

⑤ 成長段階に合った指導を行う。

⑥ 成長段階に合った指導を行う。

⑦ 成長段階に合った指導を行う。

⑧ 成長段階に合った指導を行う。

⑨ 成長段階に合った指導を行う。

⑩ 成長段階に合った指導を行う。

右面は、学校の教育活動で予防の観点となる指導の仕方を掲載しました。

肯定的に接することを続けていくことで、自分から課題を克服したいという意欲を喚起させます。



その子どもに適した指導に留意しましょう

4

この成長段階に適した指導の仕方

成長段階に適した指導の仕方を示しました。この指導の仕方に留意することで、子どもの心理面に配慮した学習活動を行うことができます。

日常から子どもの心理面に配慮した指導を行うことにより、子どもの自己肯定感を高めるための土台づくりになります。



発見シートは、これまでの指導の振り返りやこれからの指導を考えるためにも役立ちます。



気づく

「子どもの変化に気づくこと」「変化に気づいた時には、そのままにせず、その子どもを支援する準備を行うこと」が重要です。

● 気づく ●

今まで特に気になることがなかった子どもに対して、「おやっ」と思うような態度や行動、「そのままにしてしまうとトラブルになる」と感じる状況に気づくことがあります。



● めざす方向を考える ●

気づいたらそのままにせずに、今後、その子どもに積極的に関わり支援していくための準備を行うことが大切です。

今までの状況を振り返りながら、その子どもの状況を確認してみましょう。この時、スクールカウンセラー（SC）などの専門職と相談し、変化につながる要因や今後の支援の方向性などを検討することも有効となります。

関わる

肯定的に受け入れることを基本とした関わりを続けることにより、子どもの自己肯定感を高めていきます。

① 受容（気持ちに寄り添う）

● 受け止める ●

その子どものあるがままの状態をまず認めて、子どもに安心感を与えます。そして、今後の成長や変化をめざすためのきっかけをつくっていきます。

② 信頼（お互いに認め合う）

● 子どもを認め、今後の関わりにつながる肯定的な見方を共有します ●

その子どもが「これから良くなりたい」と思う肯定的な見方を、子どもとの対話の中で探し出して共有していきます。

対話は、共感や傾聴の姿勢をもち、表情などの言葉に表れない子どもの様子も観察しながら行うことが大切です。

③ 発展的な関係づくり（成長し合う）

● これからの行動について考え、提案する ●

その子どもを肯定的に捉えることができる見方を続けながら、よりよく生活するために必要となるこれからの行動を考え、子どもと共有します。

● 励ます、見守る、成長を認める ●

「良くなりたい、できるようになりたい」というこの子どもの思いが継続するよう、適切に見守り、励ましや承認を行っていきます。

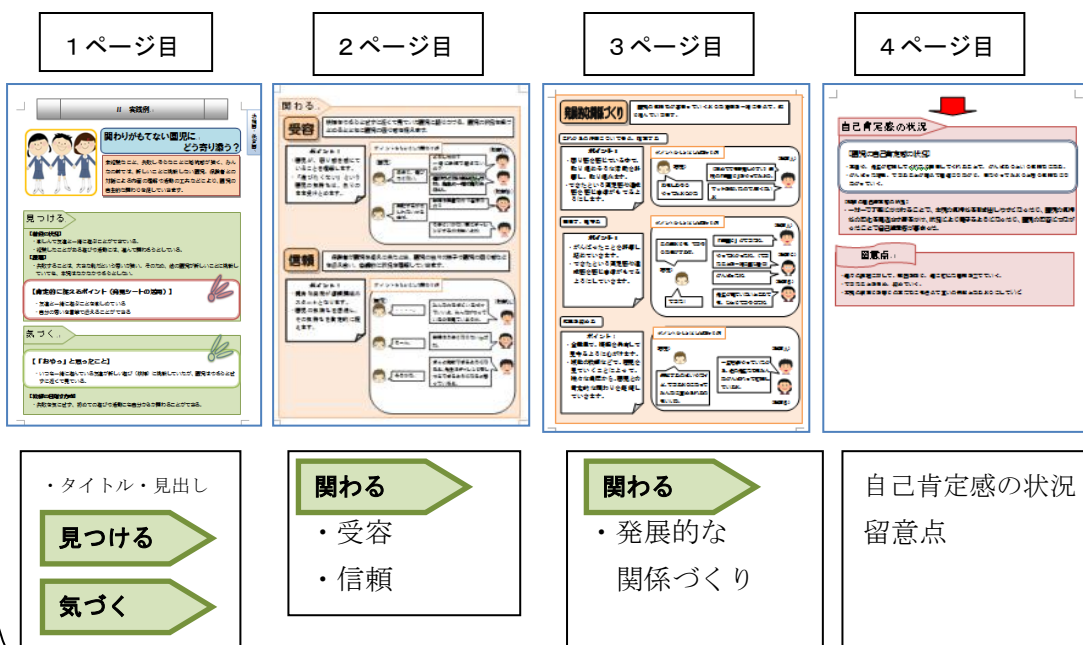


自己肯定感の状況・留意点

「**見つける→気づく→関わる**」のプロセスを続けることで、子どもの自己肯定感の状況の変容（高まった状況や維持し続けている状況、行動に至らない表情の変容も含める）が見られるようになります。

また、その子どもと関わる教職員側にも、同様の状況が見られるようになります。

* 実践例は、プロセスに合わせて4ページ構成で掲載しています。





< 特徴 >

この時期の子どもは、様々な遊びや創作を通して想像力を豊かにしたり、モノの使い方を学んだりします。また、家族以外の人との関わりも少しずつ増えることで、人付き合いについても学び始めていきます。

大人は、子どもと一緒に楽しい体験を共有したり、その子独自の感じ方を受容・賞賛したりすることで、子どもの人に対する信頼感や安心感を涵養していくことが大切です。

肯定的に捉えることができるポイントを見つけよう！

(例)自分勝手な行動が目立つ子も・・・

- ☐ 自分の好きなこと・嫌いなことを表現できる
- ☐ 良いことと悪いことを区別することができる
- ☐ 大人の手伝いを喜んで行うことができる



(例)積極的な行動が苦手な子も・・・

- ☐ 絵、音楽、ゲーム、劇などの創作活動を楽しんで取り組むことができる。
- ☐ 新しいことに興味をもち、行動できる

(例)集団の行動が苦手な子も・・・

- ☐ 同じ数にわけするなど平等に扱うことができる
- ☐ 目的に応じて、必要な道具を選ぶことができる
- ☐ 探し物などを自らで探すことができる

日常の指導に役立つ



☆ この成長段階に適した指導の仕方 ☆

- ☐ 協力やチームワークを促すような活動を計画する（競争ではなく）
- ☐ 大人1人につき、3～4人のグループ活動を支援するよう計画する
- ☐ 具体的で分かりやすい説明を行う
- ☐ 「できた」「やった！」という達成感が感じられる活動を多く計画する
- ☐ 肯定的な励ましを、すぐに子どもに返す
- ☐ 教職員自身が子どもとの会話を楽しむ（子どもに語りかけること自体が、効果的な指導と捉える）
- ☐ 活動から次の活動に、素早く移れるように手順をはっきり伝える
- ☐ 校外活動・体験活動を計画する
- ☐ 身体を動かす活動（走る、ゲームをする、ハサミで切る、塗る、貼り付ける、ブラシを使う、組み立てるなど）を行う
- ☐ おもちゃ遊びや発表の時間など、子どもと一緒に活動する機会を設定する
- ☐ 自由時間を設定し、その時間を楽しむように工夫する
- ☐ 活動の振り返りでは、匂いや感触など感覚的に捉えられることができる投げかけを行う
- ☐ 一度行った活動を、家庭で保護者などと一緒にを行うように促す

<参考 若者の発達的特徴：経験学習との関連>



視点を変えることで
認められると感じる
部分が「見つかる」



今までの指導
の振り返りや
これからの指導
に役立つ



< 特徴 >

この時期は、様々な人との出会いを通して、子どもの世界がこれまで以上に広がりを見せます。

また、子どもはルールの中で友人と楽しむことができ、さらに相手の良いところを見つけ、周囲の望ましい行動を自分の中に取り入れることができるようになります。子どもが安心感をもって安全に生活するためには、周囲の大人に助けを求めることができる環境づくりが求められます。

肯定的に捉えることができるポイントを見つけよう！

(例)相手の気持ちを考えた行動が苦手な子も…

- ☐ 他者に注目し、話を聞くことができる
- ☐ 友人の良いところを見つけることができる



(例)決まりが守られない子も…

- ☐ 自分の好きなこと・嫌いなことを伝えることができる
- ☐ 自分や友人の言動をルールに当てはめて考えられる
- ☐ 友人との関わりを楽しむことができる

(例)友達に影響を受け、行動を決められない子も…

- ☐ 自分と他者が似た感情をもつことを理解できる

(例)忘れ物が多い子も…

- ☐ 学校が楽しいと思うことができる

(例)子ども同士では上手に関係をつくれない子も…

- ☐ 大人に助けを求めることができる

- ☐ 健康的な食事や睡眠を習慣づけることができる
- ☐ 他者の望ましい行動を真似できる



☆ この成長段階に適した指導の仕方 ☆

- 具体的で、わかりやすい説明を行う
- 前回まで、どのような学習を行ったか、子どもに述べさせる機会をつくる
- 「できた」「やった！」という達成感が得られる活動を多く計画する
- 具体的な概念（数の数え方など）を含んだ学習では、短期間に多様な学習方法で指導するよう計画する
- 教職員自身が子どもとの会話を楽しむ（子どもに語りかけること自体が、効果的な指導である）
- 思考したり、能動的に学習したりする活動を焦点にして学習計画をたてる
- 活動から次の活動に、素早く移れるような手順をはっきりと伝える
- 質の違う活動（高位一例：話を聞く、ノートをとる、意見を述べる等）と（低位一例：道具の片づけや、グループの形態に座りなおす等）を交互に取り入れる
- 校外活動や体験活動を行う
- グループの子どもの発言を、同じグループの子どもに尋ねて、話すよう促す
- 走る、ゲームをする、ハサミで切る、塗る、貼り付ける、ブラシを使う、組み立てるなど、身体を動かすような活動を行う
- 自由時間を組み込み、その時間を楽しむように工夫する
- 「楽しかったこと」、「難しかったこと」など、1つの活動を多面的な感想や意見で話すことができるように促す



<参考 若者の発達的特徴：経験学習との関連>

視点を換えることで
認められると感じる
部分が「見つかる」



今までの指導
の振り返りや
これからの指導
に役立つ



< 特徴 >

この時期は、友人グループや異年齢の子との関わり等の中で、自分と他者の同じところと違うところを感覚的に認識し始めます。他者との違いが少しずつわかるため、友人の気持ちになって励ますることができたり、周囲からの情報を鵜呑みにせず疑うことができ始めたりします。

この時期では、子どもが「自分達で達成できた」と思える体験を積み重ねることが、自分と周囲を大切にする基盤となってきます。

肯定的に捉えることができるポイントを見つけよう！

(例)相手の気持ちを考えた行動が苦手な子も…

- ☐ 双方向の会話ができる
- ☐ 他者を励ますことができる
- ☐ 短期目標を立てられ、達成しようとする事ができる



(例)他者に影響され、行動を決められない子も…

- ☐ 友人関係を維持する方法を考えることができる

(例)子ども同士では上手に関係をつくれない子も…

- ☐ 自分と他者は異なった感情をもつことが理解できる
- ☐ グループに所属することができる

(例)社会の決まりが守れない子も…

- ☐ 自分の間違いを認めることができる

(例)家庭に心の居場所をつくれずにいる子も…

- ☐ 年下の子に配慮した行動ができる

- ☐ 健康的な食事や睡眠の大切さを説明できる



☆ この成長段階に適した指導の仕方 ☆

- ☐ 単元の全体像や単元内容などを提示しながら、学習を進める
- ☐ グループ学習を多く取り入れる
- ☐ 単元の一部の活動を、集団で考えて行う
- ☐ 実践的な活動（なすことで学ぶ活動）を行う
- ☐ 資料などを共有して学習する場面を活動の中に設定する
- ☐ 子どもの関心に応じて、動き回り、身体を使うような活動を計画する
- ☐ 簡単な学習活動を、より多く経験させる
- ☐ 思春期で気になる同世代の人と一緒にを行う活動では、競争を避ける
- ☐ ある程度の成果が必ず得られる（達成できる）活動を計画する
- ☐ 文章による作業は、簡便なものに留める
- ☐ 一斉指導により振り返りを行う時は、用紙やワークシートを用いて、段階的に振り返りができるように工夫する
- ☐ 曖昧になっている生活のきまりは、教師が明確にする
- ☐ 特定の児童との関わりに偏らず、全ての児童と関わる
- ☐ 年上の子ども（中学生など）が学習を支援する機会を設定する
- ☐ 集団で自由時間を過ごすことを大切にする
- ☐ 仲間や保護者の前で承認を与える

<参考 若者の発達的特徴：経験学習との関連>



視点を変えることで
認められると感じる
部分が「見つかる」



今までの指導
の振り返りや
これからの指導
に役立つ



< 特徴 >

この時期は、自分と他者の同じところと違うところを知的に理解しはじめます。また、自分の発言や行動によって、友人等がどうなるか、少しずつ予測できるようになります。

そのため、相手や状況に応じて、本人なりに人付き合いの工夫や改善点を考え始めます。この時期では、大人が子どものお手本となって、人付き合いを楽しむ姿と他者と理解し合おうとする姿を見せることがまずは必要です。

肯定的に捉えることができるポイントを見つけよう！

(例)相手の気持ちを考えた行動が苦手な子も・・・

- ☐ 自分と他者の考え方や価値観の違いを理解し始めている
- ☐ 物事の工夫点や改善点を考えることができる

(例)決まりが守られない子も・・・

- ☐ 同世代に助けを求めることができる
- ☐ グループの中で協力して作業できる



(例)仲間とうまく関係性をつくれない子も・・・

- ☐ 自身の身体的な変化を受け入れることができる
- ☐ 文献やインターネットから必要な情報を探することができる

(例)継続して物事に取り組むことが苦手な子も・・・

- ☐ 自分の言動が他者に及ぼす影響を予測できる
- ☐ 不安などを適切に表現・対処する重要性を理解できる
- ☐ 健康的なストレス対処法を選ぶことができる

日常の指導に役立つ



☆ この成長段階に適した指導の仕方 ☆

- ☐ 自分自身の理解や他者との協働生活に関係する内容の学習を設定する
- ☐ 活動的で学習意欲が高まりやすい学習を計画する
- ☐ 子どもを見下したり威圧したりしない
- ☐ 全体の前で、一人だけを前に出して評価することは控える
- ☐ 仲間づくりやレクリエーションなどの活動（健全な活動）により、思春期で気になる同世代の人と一緒にできる活動を行う
- ☐ 自己選択や自己決定の場や機会を多く与える
- ☐ 生徒一人ひとりの成長段階に配慮する
- ☐ 簡単に答えが出ない、解決に時間がかかる課題を子どもに提示する（記録に残すなど、振り返りが容易にできるよう配慮する）
- ☐ “それが行われるとどうなるか” “何が起こるか” など、予測や問題解決を促す質問を行う
- ☐ 年上の子どもや大人と一緒に作業する場面を設定し、実習等をやり遂げるよう配慮する
- ☐ リーダーシップの役割を理解して、実践する機会を設ける
- ☐ 集団づくりやルールづくりなどを、グループ活動の中で行う
- ☐ 現実的な説明に努める。（理想や抽象的な説明よりも）
- ☐ 自分の生活圏の外での学習経験を促す

＜参考 若者の発達的特徴：経験学習との関連＞



視点を変えることで
認められると感じる
部分が「見つかる」



今までの指導
の振り返りや
これからの指導
に役立つ



< 特徴 >

この時期は、自立心が強まり、他者との違いを少しずつ楽しめるようになってきます。

ただ、一人で活動する難しさも体験し、自分に対する自信がゆらぐことがあります。大人は日常のコミュニケーションを基盤として、子どもを見守りながら、必要に応じて問題を一緒に考え合う時間をつくることが求められます。

肯定的に捉えることができるポイントを見つけよう！

(例)相手の気持ちを考えた行動が苦手な子も…

- ☐ 自信をもって自分の意見を言うことができる
- ☐ 自分の進路の方向性をある程度明確にできる

(例)社会の決まりを守れない子も…

- ☐ 自分と他者の共通点・相違点を考えることができる
- ☐ 他者の気持ちに寄り添った声かけができる

(例)家庭に心の居場所をつくれずにいる子も…

- ☐ 自主的に情報収集できる
- ☐ 日常の簡単な問題を自主的に解決できる

(例)自分の進路の不安をうまく改善できない子も…

- ☐ 目標を達成できた要因、できなかった要因を考えることができる
- ☐ 複数の健康的なストレス対処法をもつことができる
- ☐ 不安などを適切に表現・対処できる





☆ この成長段階に適した指導の仕方 ☆

- ☐ 自己表現できる機会を設定する
- ☐ 活動から、何を学んだか尋ねる
- ☐ 常識、身だしなみ、健康などに関連する情報を取り入れて会話する（身長、サイズ、体格を批判、比較することは避ける）
- ☐ 遠足、ダンス、グループ活動など、さまざまな人と交流する活動を計画する
- ☐ 自分の信念や価値観を語る機会を設定する
- ☐ 政治や平和など、社会的な理想や抽象的概念をグループで論じ合う時間を設定する
- ☐ さまざまな役割を生徒が試すことができる活動を計画する
- ☐ 年下の子どもに助言する活動を企画する（個別指導やコーチの助手など）
- ☐ 社会的な活動を含んだプログラムを大人の指導・助言のもとで行う
- ☐ 長期的な目標を設定し、達成できるように支援する
- ☐ リーダーシップのスキルを高め、社会性の発達を促す
- ☐ 一般社会での活動を行い、大人からの指導と助言を受ける
- ☐ 大人として、失敗を許し、受け入れる体制を積極的につくる

<参考 若者の発達的特徴：経験学習との関連>



視点を変えることで
認められると感じる
部分が「見つかる」



今までの指導
の振り返りや
これからの指導
に役立つ

实践例





関わりがもてない園児に どう寄り添う？

未経験なことや失敗しそうなことに抵抗感が強い園児。自分から挑戦していこうとする園児の気持ちをつくっていく関わり方とは？

見つける

【普段の状況】

- ・楽しんで友達と一緒に遊ぶことができています。
- ・経験したことがある遊びや活動には、進んで関わろうとしている。

【課題】

- ・失敗することは、恥ずかしいという思いが強い。そのため、他の園児が新しいことや苦手なことに挑戦していても、なかなかやろうとしない。

【肯定的に捉えるポイント（発見シートの活用）】

- ・自分の好きなこと・嫌いなことを表現できる。
「発見ツール（幼稚園・保育園段階）」
- ・自分の思いを言葉で伝えることができる。「発見ツール（幼稚園・保育園段階）」



気づく

【「おやっ」と思ったこと】

- ・いつも一緒に遊んでいる友達が新しい遊び（鉄棒）に挑戦していたが、やろうとせずに近くで見ている。



【教職員のめざす方向】

- ・失敗を気にせず、初めての遊びや活動にも自分から関わるができる。

関わる

受容

鉄棒をやろうとせずに近くで見ていた園児に語りかける。園児の状況を受けとめるとともに園児の困り感を捉えます。

ポイント！

- ・ 園児が、困り感を感じていることを理解します。
- ・ 「遊びたくない」という園児の気持ちは、ありのまま受けとめます。

ポイントをもとにした関わり例

(園児)

あまり、遊びたくない。



失敗するかもしれないから嫌だ。



どうしたの？
一緒に鉄棒で遊ばないの？

(教師A)



遊びたくない気分なんだね。先生と一緒に見てみない。

(教師B)



ちょっとやってみる？

うまくいかないことにチャレンジするのは怖いよね



信頼

保護者が園児を迎えに来たとき、園児の日々の様子や園児の困り感などを伝え合い、客観的に状況を理解していきます。

ポイント！

- ・ 親身な姿勢が信頼関係のスタートとなります。
- ・ 園児の気持ちを想像し、その気持ちを肯定的に捉えます。

ポイントをもとにした関わり例

(園児)

……。



うん。



そうかな。



みんなのそばにいていいよ。みんながやっているのを見てみようか。

(教師A)



鉄棒、うまくなりたい気持ちはあるのかな。

(教師B)



その気持ちが大切だよ。チャレンジをしたらだんだんできるようになると思っているよ。



発展的な関係づくり

園児の気持ちが高まっていくような活動を一緒に考えて、取り組んでいきます。

これからの行動について考え、提案する

ポイント！

- ・自分から行えそうな活動を計画し、取り組みます。
- ・できたという満足感や達成感を得て自信がもてるようにします。

ポイントをもとにした関わり例



ぼくにもできるかな。
やってみる。

(初めてでも参加しやすい) 鉄棒の「ツバメ」をやってみよう。

マットを敷いたので、痛くないよ

(教師A)



励ます、見守る

ポイント！

- ・頑張ったことを評価し認めていきます。
- ・できたという満足感や達成感を得て自信がもてるようにしていきます。

ポイントをもとにした関わり例

この前よりも、できそうな気がする。



できた！

「ツバメ」ができたね。

やってよかったね。(できたことを一緒に喜び合う)

がんばったね。

先生が見ていないところでも、一人でできそうだね。

(教師A)



(教師C)



(教師B)



成長を認める

ポイント！

- ・全職員で、情報を共有して見守るように心がけます。
- ・複数の教師などで、園児を見ていくことによって、様々な角度から、園児との肯定的な関わりを継続していきます。

ポイントをもとにした関わり例



失敗するのはいやだけど、できるようになってみんなにほめられるのもいいな。

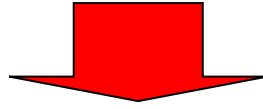
一生懸命やっていたから、他の先生たちもみんな頑張れって応援しているよ。

(教師A)



(教師B)





自己肯定感の状況

【園児の自己肯定感の状況】

- 友達や、先生が応援してくれたり励ましたりしてくれることで、頑張ろうという気持ちになる。
- 頑張った結果できることが増えて自信につながる。さらに、またやってみようと思う気持ちにつながっていく。

【教師の自己肯定感の状況】

- 一対一で丁寧に関わることで、園児の気持ちを引き出しやすくなったり、園児の気持ちの変化を見逃さず声をかけ、状況により見守るようになったり、園児の変容につながったことで自己肯定感が高まる。

留意点

- 個々の課題に対して、原因を探り、個に応じた目標を立てていく。
- できたことをほめ、認めていく。
- 園児の頑張りを周りの友だちにも伝えて互いの刺激となるようにしていく。



注意力散漫？好奇心旺盛？ 関わり方は？

授業では、集中して取り組むことが苦手な児童。まわりに興味をもつことを認めながら、支援をしていくには？

見つける

【普段の状況】

- ・他者に対する興味や関心がある。
- ・学校での活動に頑張っており取り組むが、最後の成果について満足 of いかないことが多い。

【課題】

- ・先生からの注意を受けることが多く、なかなか自信がもてない。
- ・自分ができたと思っても、何か不足しているとか、ねらいと違うことがある。

【肯定的に捉えるポイント（発見シートの活用）】

- ・学校が楽しいと思うことができる。「発見ツール（小学校低・中学年段階）」
- ・他者に注目し、話を聞くことができる。「発見ツール（小学校低・中学年段階）」



気づく

【「おやっ」と思ったこと】

- ・理科の授業中、教師の話を聞き漏らしてしまい実験を失敗してしまった。
（校庭で体育を行っている他クラスの様子を気にしていた）



【教職員のめざす方向】

- ・「学校が楽しい」「先生を信じている」という意識をもとに、集中できるように支援する。その気持ちを、自分の行動へつなげて少しずつ自信をもてるように、積極的な関わりを継続していく。

関わる

受容

児童と関わりのある担任が、日常の様子から状況について問いかけ、どのような気持ちになっているかを聞きます。

ポイント！

- ・ 児童の様子に気になる状況があった場合、担任はすぐに声をかけて、児童の状況を把握し、どんな気持ちであるかを把握します。

ポイントをもとにした関わり例

(児童)



授業になかなか集中できない。



だけど、なかなかうまくいかないよ。

(担任)

どうしたのかな。



そうか。集中できないんだね。だけど、集中しようとしているんだね。



頑張ろうとしているのに、うまくいかないのはつらいよね。



信頼

担任が児童に対し、どうしてそのような行動になっているのかを丁寧に聞き、これからの関わり方を一緒に考えます。

ポイント！

- ・ 児童の気持ちを受け入れる姿勢で、丁寧に理由を聞きます。
- ・ 親身な姿勢が信頼関係のスタートとなります。
- ・ 児童の考えを受け入れつつ、原因と改善点を一緒に考えます。

ポイントをもとにした関わり例

(児童)



先生の話は聞こうとしているけど、どうしても気になってしまふよ。



そうだよ。



学校も楽しいし、先生の話はしっかり聞こうと思っているよ。

(担任)

校庭に誰かいると気になるのかな。



授業中、先生の話をしっかり聞こうとしているんだね。



その気持ちはとてもうれしいよ。



発展的な関係づくり

励ます、見守る

ポイント！

- ・ 児童のがんばっていたことを認めつつ、児童のより良くなりたいという気持ちを担任、学年職員等が理解していきます。
- ・ 頑張った場面を見逃さず、本人に伝えるように心がけます。

児童との関わりから、児童の考えや捉え方について理解し、次の行動への意欲がうまれるような関わりを継続していきます。

ポイントをもとにした関わり例

(児童)



まわりの人のことが気になることはだめなことかな。



どうやったら集中できるのかな。



話をずっと聞けないことは直らないかな？

(担任)



話を一つずつ聞けるといいね。そのうち多く話を聞けるようになるよ。



だめなことではないよ。話し合いの時には、まわりの人を気にして話を聞けるのは大切なことだよ。



全部を聞こうとしないで、大切なことは、ノートにメモするといいよ。

成長を認める

ポイント！

- ・ 全職員で児童に声をかけて、児童が成長を感じられるように意識します。
- ・ 児童本人が意識して行動するために、児童が成長したことを自覚できるような関わりをします。

ポイントをもとにした関わり例

(児童)



全部聞こうとはしないで、大切なことを集中して聞くようにします。



まわりに人がいて、気になったけど、しっかりとメモをすることができたよ。



話を聞いて、わかってくると授業も少しずつ楽しくなってきたな。

(担任)



話をしている人の目を見て、聞いていると、話がよく分かるようになるよ。

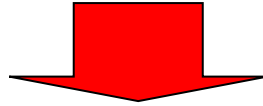


すごいよ。先生も、大切なところをメモがしやすくなるように、分かりやすく話すようにするよ。

(学年主任)



集中して話が聞けるようになったね。担任の先生がほめていたよ。



自己肯定感の状況

【児童の自己肯定感の状況】

- 自分ができない不安も、徐々に改善されている。担任を始め、まわりの教職員の肯定的な受け止めにより、前向きに考えて取り組めるようになっている。

【教師の自己肯定感の状況】

- 児童の取組への変化に担任が気づき、まわりの教職員と協力して対応できるようになる。
- 児童への関わりの理解を深めることで、児童への取組の変化を感じることができるようになる。

留意点

【指導のあり方について】

- 教職員の多方向からの支援により、児童が自分の行動に対して不安をもたずに、行うことができるようにする。
- 児童の行動に対し、肯定的な関わりを行うことで、児童自身が前向きに行動をする意欲をもつことができるようにする。
- 児童の状況について、まわりの教職員が状況確認を適宜行うことで、児童の現状を把握したうえでの支援につなげる。



傷つける言葉の裏にあるものは、 何でしょうか？

相手を傷つける言葉を発してしまった児童。その言葉を発した原因は、何だったのでしょうか？

見つける

【普段の状況】

- 自分の思ったことは、相手の気持ちをあまり考えずに話してしまうことがある。
- 授業中は落ち着いていて、あまり自分からは発言しない。

【課題】

- 自分の気持ちをうまく相手に伝えられない時があり、自分から積極的に集団と関わろうとしない。

【肯定的に捉えるポイント（発見シートの活用）】

- 大人に助けを求めることができる。「発見ツール（小学校低・中学年程度）」



気づく

【「おやっ」と思ったこと】（教科担当）

- 昼休みの時間、教室で友達とお絵かきをして遊んでいた時、友達の嫌がることをわざと言って泣かせてしまった。



【教職員のめざす方向】

- 学級担任が児童と積極的に関わりながら、学級の友達に上手に自分の気持ちを伝えることができるようにする。

受容

嫌がることを言われた児童の対応だけでなく、嫌なことを言った児童に話しかけ、気持ちを受け止め状況を確認します。

ポイント！

- ・児童を落ち着かせることに留意しながら、児童の気持ちを受けとめます。
- ・状況に応じて、学年やスクールカウンセラーと連携し、児童の気持ちを受けとめます。

ポイントをもとにした関わり例

(児童)

嫌がることをつい言っちゃった。

(児童)

どうして言ったのか自分でもよく分からない。

(担任)

どうしたのかな。

嫌がることを言っちゃったんだね。

(SC)

自分でも言われたら嫌なことだと分かっているんだね。

信頼

嫌がることをした児童から話を聞き、その行動に至った児童の気持ちを理解していきます。

ポイント！

- ・「自分を大切にされたい」と前向きに捉えている部分を基点对話を進めます。
- ・被害児童への謝罪等の指導を見据えて関わります。
- ・いじめが疑われる場合は、児童指導担当や管理職にその旨を伝えます。

ポイントをもとにした関わり例

(児童)

嫌な気分になったから。

(児童)

相手がにらんできたと思ったから。

(児童)

分からない。

(担任)

どうして嫌がることを言ってしまったのかな。

どうしてそう思ったのかな。

何か理由はあるの？

人のことは気にしないことも大切ではないかな。

発展的な関係づくり

「自分を大切にされたい」という気持ちから、相手にも同じ気持ちがあることに気づかせ、大人が連携を図りながら関係をつくっていきます

これからの行動について考える

ポイント！

- ・状況に応じて、学年やスクールカウンセラーと連携し、児童の気持ちを受け止めます。

ポイントをもとにした関わり例

(保護者)



そうだな。悪いことをしたな。



そうしていきます。

(担任)



友達も、自分を大切にされたいと思っているはずだよ。

(学年主任)



友達のことも考えて行動していけるかな。

(S C)



相手を傷つけないで自分の気持ちを伝えることができるといいね。

励ます、見守る

ポイント！

- ・定期的に様子を聞くなどして、児童に関心をもっていることを伝えます。

ポイントをもとにした関わり例

(児童)



うん。相手が嫌な気持ちにならないような言葉で話しているよ。

(担任)



今日、友達と楽しそうに遊んでいたね。

(S C)



自分が言われて嫌だと思う言葉を避けて話しているんだね。

成長を認める

ポイント！

- ・児童の自分自身の成長を肯定的に捉える新しいポイントとして見ていきます。
- ・学年で相談・連携しながら指導にあたるように心がけます。

ポイントをもとにした関わり例

(児童)



友達と仲良く遊んでいるよ。



みんなのために、友達の良いところをもっと見つけよう。

(学年主任)

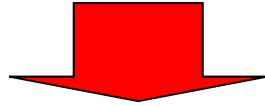


友達が嫌な気持ちにならないように、自分の気持ちを伝えられるようになったね。

(担任)



相手のことを考えて話すので、友達へのアドバイスもすごく上手になったよ。



自己肯定感の状況

【児童の自己肯定感の状況】

- 自分の気持ちを少しずつ適切に表出できるようになり、他者とも積極的に関わろうとする気持ちをもつことができた。

【教師の自己肯定感の状況】

- 家庭から、学校でのがんばりを話すようになったと伝えられ感謝された。
- 学級の児童の発言が活発になった。

留意点

- 日常から、児童の発言・発表する機会を多くし、自分の考えを伝えることができるような授業づくりをめざすようにする。
- すぐに改善が図れると決めつけない。粘り強い関わりが重要で、児童のわずかな変化に気づき、認めるようにする。



困ったら相談するよう促していますか？

普段目立たない児童。時折気になることがあったものの今まで大きなトラブルもなく生活をしていた。ある日の授業中、その児童がプリントを破いているところを見た。この後どう対処する必要があるか。

見つける

【普段の状況】

- ・サッカー少年団に所属し、運動好きだが器用なタイプではない。学習にはあまり積極的でなく、宿題を忘れることも少なくない。
- ・縦割り活動では、同じグループの低学年児童に優しくしていた。
- ・遠足や運動会では元気な姿が見られていた。

【課題】

- ・学習について、日ごろから苦手意識をもっている。家庭では、家族間の人間関係にトラブルがあり、なかなか落ち着いて生活できていない。友だちとは、からかいなどささいなトラブルを起こすが、大きなトラブルはない。

【肯定的に捉えるポイント（発見シートの活用）】

- ・双方向の会話ができる。「発見ツール（小学校高学年段階）」
- ・年下の子に配慮した行動ができる。「発見ツール（小学校高学年段階）」



気づく

【「おやっ」と思ったこと】（教科担当）

- ・算数の授業中、プリントを破いた。



【教職員のめざす方向】

- ・教師や同世代に助けを求めることができる。

関わる

受容

担任が、授業中の様子について伝え、どのような気持ちになっているのかを聞きます。

ポイント！

- ・担任は日ごろより積極的に声かけ、見守り良好な関係を継続します。
- ・気になる状況があった場合、すぐに声をかけて児童がどんな気持ちであるかを確認します。

ポイントをもとにした関わり例

(児童)



むしゃくしゃして、
とっても嫌な気持ち
になってしまって、
プリントを破いて
しまった。

(担任)

どうしたのかな。



むしゃくしゃしたり、
嫌な気持ちになっ
たりしてしまっ
たんだね。



信頼

担任が、児童に対しどうしてそのような行動になっているのかを丁寧に聞き、行動の原因を一緒に考えます。

ポイント！

- ・まずは丁寧に理由を聞き、児童の気持ちを受け入れる姿勢をもちます。
- ・今回の出来事を機に、場合によっては保護者と連携し情報共有をしていきます。

ポイントをもとにした関わり例

(児童)



家でいろいろあった
んだ。5時間目の友達
の言葉で抑えられな
くなった。



うん。

(担任)

そうか。むしゃくしゃし
ていたんだね。どうし
て、むしゃくしゃして
いたのかな。



むしゃくしゃする気持
ちを我慢していたんだ
ね。家のことも大切だ
と思っているんだね。



発展的な関係づくり

周囲から自分の努力を励まされ、肯定的に捉えられていると感じることができるような関わりをします。

これからの行動について考え、提案する

ポイント！

- ・ 早期に相談するなど改善の方法を示します。
- ・ 養護教諭などに相談して、専門的な視点からの支援も得るようにします。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



今度からは、プリントを破く前に、嫌なことがあったら先生に相談するよ。

(担任)



嫌なことは誰にでもあるよ。いつでも先生に相談してね

(養護教諭)



気持ちを落ち着かせる方法を一緒に身につけていきましょう。

励ます、見守る、成長を認める

ポイント！

- ・ 児童に関わる教員が、同じ気持ちで関わるように連携を図ります。
- ・ 児童の取組や成長を家庭に知らせ、保護者との連携も図っていきます。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



この間、いやなことがあったとき、先生に相談できたよ。

(教科担当)



最近、落ち着いて授業に取り組んでいるね。

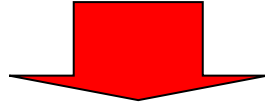


他の先生からも、あなたが授業中、積極的に取り組んでいると聞いているよ。

(担任)



がんばっている様子を連絡帳に書いたから、家の人に渡してね。



自己肯定感の状況

【児童の自己肯定感の状況】

- ・今回の案件から、教師達から声をかけられることで自分が見守られていると感じ、安心感をもち、学習へも少しずつ前向きになり、自己肯定感が高まった。

【教師の自己肯定感の状況】

- ・この児童は、何か嫌なことがあった時、保護者や教師に話すようになった。また、教師の声かけ等があったからか、授業中「～が分からない。」等教師へ質問するようになるなど、児童の変化がみられ、教師自身が自己肯定感を感じられるようになった。

留意点

- ・児童の行動には、学習面が影響している可能性もある。分かる授業づくりなど教科指導についても工夫していく。



自分を認めてくれないと思っている子への関わり方は？

得意なこともやらなくなって、「私のことを分かってくれない」とつぶやく子。勉強は苦手であるが、好きなことには一生懸命に取り組む。そんな姿を大事にしたい。自分の生活を振り返り、クラスの仲間との接し方も見直していく。

見つける

【普段の状況】

- 勉強は苦手であるが、漢字練習には熱心に取り組んでいる。
- 普段から宿題を忘れることが多く、集中力も続かない。
- 人懐っこくて話好きである一方、友達が少なく、休み時間は一人でいることが多い。

【課題】

- 勉強は、どうせできないとあきらめがちである。
- 得意な漢字練習はするが、苦手な計算問題はやらないので、できないまま。
- 自分を表現することは好きだが、みんなに分かってもらえないという思いがある。

【肯定的に捉えるポイント（発見シートの活用）】

- 双方向の会話ができる。「発見シート（高学年段階）」
- 短期目標を立てられ、達成しようとすることができる。「発見シート（高学年段階）」

気づく

【「おやっ」と思ったこと】

- 朝、登校すると、髪の毛が乱れ、服装の汚れが目立つようになった。
- 休み時間、教師のところによく来ていたが、来なくなった。
- 漢字テストの練習や読書など、今までがんばってきたことをやらなくなった。

【教職員のめざす方向】

- 努力してきたことに対して、もう一度取り組んだり、新たな目標を立て、スモールステップを踏みながら行ったりする。
- 友達の考えや思いを受け止め、相手を思いやる気持ちをもつ。

関わる

受容

担任が授業中や休み時間における児童のつぶやきや、話しかけてきたことに対して、敏感に反応し、その児童の思いを受け止めます。

ポイント！

- ・ 児童の今までためていた気持ちをありのまま受け止めていきます。
- ・ とにかく児童の思いに寄り添います。

ポイントをもとにした関わり例

(児童)

親が勉強しろしろってうるさいんだ。だから、やりたくなかった。



友達には「算数ができない」って思われている。そんな人ともう話したくない。

(担任)

最近、漢字テストの結果がよくないけど、どうしたの？



そうか。家の人がいるというんだね。



友達にそう思われているんだね。



信頼

担任は、児童の思いを受け止めながら、新たな視点、別の考え方を示し、今後、児童自身が取り組む方向性をともに探ります。

ポイント！

- ・ 勉強への意欲があることを意識させます。
- ・ 勉強ができないと否定的な見方をするのではなく、成長しようという肯定的な意欲が、行動と結びつかないことが原因と見方を変えていきます。

ポイントをもとにした関わり例

(児童)

うん。



やる気はあるんだけど、周りの声が気になっちゃう。



そうかなあ。

(担任)

今まで、漢字練習を一生懸命にやっていたのに、残念だね。



やる気はあるんだよね。



人に何を言われても自分のペースでやればいいんじゃないかな。



発展的な関係づくり

担任は、児童が話してきた内容に対して、問題は何か、原因はどこか、どうすれば解決していくのかを、児童と一緒に考え、取り組みながら、児童の実践力につなげるように関わります。

今後の取組に対して助言する

ポイント！

- ・具体的な方法を協力して決めていきます。
- ・保護者とは密に連絡を取り、様子をお互いに伝えます。

ポイントをもとにした関わり例

(担任)

(児童)

じゃあ、時間を決めてやってみようかな。

いつやれそうかな。一日のスケジュールをたててみる？

スケジュールは、これでいいのかな。

家庭にも連絡しよう。家庭での頑張りを友達にも伝えよう。

励ます、見守る

ポイント！

- ・その子なりの成長につながるよう、必要に応じてステップを修正します。
- ・保護者の困り感については、スクールカウンセラーなどの専門職につなげます。

ポイントをもとにした関わり例

(担任)

(児童)

親に、「勉強しろ」って言われなくなった。だけど、勉強をやらないときもある。

スケジュールで何か、変えた方がいいところもありそうだね。友達にいつも、どうしているか聞いてみるのもいいんじゃないかな。一緒に見直しをしてみようか。

友達に相談してみよう。

保護者と相談しました。子どもの家庭での過ごし方に少し課題を感じていたようです。今後も相談を継続していきます。

(S C)

成長を認める

ポイント！

- ・その子なりの成長を認めるとともに、学級の集団にもつなげていきます。
- ・さらに次のステップにつながるように関わり続けます。

ポイントをもとにした関わり例

(担任)

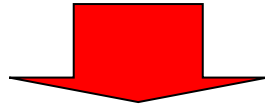
(児童)

この間、続けて漢字テストでいい点数がとれたよ。親にもほめられた。

そうだね。努力したからね。

友達も「漢字テストがんばっているね」って言ってくれた。

クラスみんなもあなたのがんばっているところを分かってくれたね。その調子で続けていこう。



自己肯定感の状況

【児童の自己肯定感の状況】

- 生活のリズムが整い、時間的な余裕ができて、服装や持ち物などに意識がいくようになった。
- 苦手な勉強にも自分なりに工夫しながら取り組み、結果にも表れるようになった。
- クラスの仲間との会話が増え、保護者も本人の努力を大いに認めるようになった。

【教師の自己肯定感の状況】

- 児童の困り感をいち早く感じ取り、すぐに手立てをとることができた。
- 児童一人ひとりの思いを大切にすることが、学級全体の人を思いやる心を育てることにつながった。
- 保護者の理解や協力も、児童が変容する大きな要素であることを改めて感じた。

留意点

- 大きなジャンプアップを求めるのではなく、児童が一步一步、自分の力で歩んで行けるように計画し、実践していく。
- お互いの得意なことや苦手なことを認め合えるような、人間関係づくりが大切である。
- 保護者との連携がとても大事である。学校の思いと家庭の思いが重なり合えば、児童にとって大きな支えになる。



見通しをもたせた学習を進めさせていますか？

学習の見通しをもてず、することが分からない児童。学習の目標や手立ての見通し、学習の意味をもたせるためには？

※この実践事例は、教科指導におけるPDCAサイクルを基にした単元構成の「P」にあたります。

見つける

【普段の状況】

- ・自分の興味のあるものには、積極的に取り組んでいる。
- ・自分で納得のできないことに対しては、なかなか行動にうつすことができない。

【課題】

- ・学習が生活の役に立つという実感をもてず、学習が無意味なものであると思っている。

【肯定的に捉えるポイント（発見シートの活用）】

- ・自分の好きなこと・嫌いなことを表現できる。「発見シート（小学校低・中学年段階）」
- ・新しいことに興味をもち、行動できる。「発見シート（小学校低・中学年段階）」



気づく

【「おやっ」と思ったこと】（教科担当）

- ・授業開始時に「この授業は何をしているのか分かりません。」という発言がある。
- ・単元や授業（1コマ）の導入時にうつむいていたり無反応だったりする。



【教職員のめざす方向】

- ・目標や手立ての見通しをもって学習を進めることができるようにする。

関わる

受容

児童から突然の言葉を受けるが、正直な気持ちの表明と捉え、冷静に対処します。

ポイント！

- ・ 先ずは、児童の気持ちを推測して返答をします。
- ・ 児童の発した言葉への評価ではなく、教師の気持ちを表明します。

ポイントをもとにした関わり例

(児童)



この授業は何をしているのかわかりません。



何で勉強しなければいけないのですか。



つまらない。

(教科担当)

分からないまま授業を受けているのはつらいよね？



今まで我慢していたんだね。先生の授業はつまらない？



信頼

担任が、言葉に表れない表情等を観察し、児童の発言の背景を理解し、児童に共感的態度で話をします。

ポイント！

- ・ 肯定的な動機を推測し、確認していきます。
- ・ 「勉強が分からない」「したくない」という発言に引きずられないようにします。
- ・ 情報を共有した担任はすぐに児童と話をし、共感するとともに、目的をもって取り組むことの大切さを話します。
- ・ 学習以外の興味・関心について、積極的にリサーチし共感的な姿勢を示します。

ポイントをもとにした関わり例

(児童)



だけど、わからない。



インターネットで調べたりすることが好き。



好きな電車のことを調べているよ。

(担任)



授業では、何を学習しようとしているのかを考えているんだね。



知りたいなあとか、わかりたいなあとか考えながら授業を受けていることは大切なことだね。勉強以外では、どんなことに興味があるの？



どんなことを調べているの？



児童の興味・関心を学習にうまくつなげることができれば、授業への積極性が出そうだな。知りたい、わかりたいという気持ちをより確実に叶えるためには、見通しをもたせることが必要だな。

発展的な関係づくり

教科担当は、児童の特徴を意識した声かけを行い、授業を理解したいという発展的な動機づけを行っていきます。

授業の前に

ポイント！

- ・教科担当は学習の目標を明確にします。

ポイントをもとにした関わり例

(教科担当)

(児童)



何をすれば良いのかわかれば、インターネットで調べて考えることができるかも。

何のために学習をしていて、どのようにすれば良いのか、授業で説明をしているから、目標を理解して授業に取り組もう。



成長を認める

ポイント！

- ・児童が授業の目標を意識しながら取り組んでいることをしっかりと評価します。

ポイントをもとにした関わり例

(教科担当)

(児童)



単元の導入時に示された、学習目標を確認して、インターネットを使って調べるようにしたよ。

考えながら、学習を進めることができたようになったね。



何をすれば良いのかが分からなくなってしまったときは、単元の導入時に示された、学習の手順を確認するようになったよ。

励ます、見守る

ポイント！

- ・児童のできるようになりたいという気持ちに寄り添います。

ポイントをもとにした関わり例

(教科担当)

(児童)



確認しても、調べても分からない時があります。

単元や授業の導入時に示してある学習の目標や手順を、自分で確認しようとしているところが大切だよ。それでも分からないときには、先生に聞いてもいいんだよ。



教師自身の指導計画を見直す

ポイント！

- ・全教師で教科指導について研修を行います。
- ・単元を通して、見通しをもって児童が授業に取り組める工夫をします。

ポイントをもとにした関わり例

(児童)

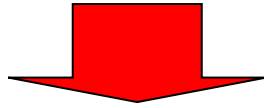


今日の授業は何をすれば良いのかが分かりやすかった。これでどんな力がつくのだろうか？

単元や各授業の導入時に、学習目標や学習手順を示すことは有効だ。次の単元の指導の際には、今回の学習で身に付けた力を生かしながら、課題を解決しているという実感をもたせる声かけをしよう。

(担任)





自己肯定感の状況

【児童の自己肯定感の状況】

- 目的や手立ての見通しをもった学習を進めることができ、授業を自分にとっての有効な学びの時間であると捉えている。
- 身に付けた力について自分なりの意味づけをすることができるようになり、無駄な時間ではないという考えをもつことができるようになる。

【教師の自己肯定感の状況】

- 児童が主体的に学ぶ授業を構想することができるようになり、「わかった。」「できた。」という表情に接する機会が多くもてるようになる。
- 児童が見通しをもって学習する授業を構想する力が身に付き、他の教育活動においても効果的な指導をすることができるようになる。

留意点

【授業改善について】

- 見通しをもたせること、安心感をもって学習に臨むことができるようにする。
- 児童にとって身近で必然性のある学習課題を設定することで、学習に向かう意欲を高めることができるようにする。
- 学習したことを振り返ることで、身に付けた力を確認させ、学習の意味を理解させることができるようにする。
- 学習目標に迫っていることを実感させたり、学習活動の中で児童が表現したことの意味をもたせたりすることで、学習への意欲を持続させることができるようにする。



子どもたちがワクワクするような授業展開ができていますか？

授業に集中できない児童が、関心をもち進んで学習に取り組むことができるためには・・・？

※この実践事例は、教科指導におけるPDCAサイクルを基にした単元構成の「D」にあたります。

見つける

【普段の状況】

- ・宿題をやる日とやらない日がある。
- ・図工の創作活動など、自分の得意なことには集中して取り組んでいる。
- ・休み時間は友人と楽しく遊んでいる。

【課題】

ほとんどの授業については、つまらないと感じ、「どうせやっても・・・。」と思っている。

【肯定的に捉えるポイント（発見シートの活用）】

- ・短期目標をたてられ、達成しようとすることができる。

「発見シート（小学校高学年段階）」



気づく

【「おやっ」と思ったこと】

- ・授業に無関心になり、集中力がなく、身が入っていない様子。
- ・授業中に寝てしまうこともある。



【教職員のめざす方向】

- ・授業への関心を高め、進んで学習に取り組めるようにする。

関わる

受容

授業中の児童の様子の変化に気づいた担任が、次の休み時間に児童に声をかけ、話を聞きます。

ポイント！

- ・ まずは、児童の気持ちを推測して返答をします。
- ・ 「やる気」がないことよりも、「やる気がなくて困っている」気持ちに注目します。

ポイントをもとにした関わり例

(児童)



やる気がぜんぜん起きない。授業がつまらなく、何で勉強しなければいけないのだろう。

(担任)

何か心配事でもあるの？



やらなきゃいけないのに、やる気が起きないのはつらいよね。



信頼

担任が、言葉に表れない表情等を観察し、児童の発言の背景を理解し、児童に共感的態度で話をします。

ポイント！

- ・ 担任の親身な姿勢が信頼関係のスタートとなります。
- ・ 児童の「このままでは良くない」という隠れた動機を支援する姿勢が信頼を生みます。
- ・ やる気が起きなことを叱るのではなく、それをなんとかしたいという児童の気持ちを認めます。

ポイントをもとにした関わり例

(児童)



勉強も難しくなってきた、何をやるのかよくわからないから、やる気がなくなって眠くなります。

(担任)

つらいときは、何でも話してくれていいんだよ。



どうしていいかわからないけれど、それでは良くないと考えているんだね。それは大切なことだよ。先生ももっと楽しい授業を心がけないといけないね。相談しながら何とかしていこうね。



授業の導入で具体物を提示してみよう。今日はどんなことを学ぶのかを板書してみれば、授業に参加できるかもしれない。個別にも声をかけて、達成感の得られる授業にしていこう。保護者にも相談する必要があるな。



発展的な関係づくり

周囲から自分の努力を励まされ、肯定的に捉えられていると感じることができるように関わるとともに、授業についても改善します。

学習活動に見通しをもたせる

ポイント！

- ・授業において何をするのかを示し、やる気を引き出します。

ポイントをもとにした関わり例

(児童)



授業で何をするのかを分かった、やる気がでるな。だけど、まだ分からないところは先生に相談しよう。

(担任)



学習目標を必ず提示しよう。授業の導入を工夫して児童の興味を引き付ける工夫をしてみよう。個別の課題解決のために手順も必要かな。

成長を認める

ポイント！

- ・児童が授業の目標を意識しながら取り組んでいることをしっかりと評価します。

ポイントをもとにした関わり例

(児童)



今日の勉強楽しかったです。目標が書いてあるから分かりやすいな。

(担任)



最近の授業は調子がいいね。頑張っているね。



先生もみんなに何をするのかしっかりと理解してもらえる授業をしようと頑張っているんだよね。これからもがんばろうね。

励ます・見守る

ポイント！

- ・学習につまずきそうな時も、児童のできるようになりたいという気持ちに寄り添いアドバイスをします。

ポイントをもとにした関わり例

(児童)



今日の勉強は難しいなあ。

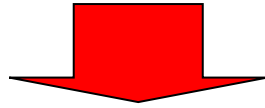
(担任)



今日は何の勉強をしているのか考えながらやるんだよ。もしそれでも分からないときは、先生に聞けばいいんだよ。気分転換するのも大事なかもね。



保護者に状況を報告し、頑張りを伝えとともに、協力していくことも必要だな。



自己肯定感の状況

【児童の自己肯定感の状況】

- ・勉強が楽しくなってきた。
- ・分からなかったことが分かってうれしい。

【教師の自己肯定感の状況】

- ・授業改善に取り組んだことで、児童が学習にやる気を出してくれた。
- ・導入を工夫したことで、児童たちの興味・関心をひきつけることができた。
- ・手立てを工夫したことで、授業が分かる児童が増えた。

留意点

【授業改善について】

- ・単元の指導計画を基に、指導のねらい（本時の目標）を明確にすることで、児童が授業で何をすべきかを理解できるようにする。
- ・誰もが授業に参加できる工夫をする。
具体物を提示したり、ICTを活用したりして児童の思考をサポートできるような工夫を行う。
- ・「今」何をしているのか、分かるように手順を視覚化するなどの工夫をする。
- ・授業中の児童の、表情の変化やつぶやきなどよく観察する。



支援なしで大丈夫ですか？

外国につながるのある日本国籍男子生徒。授業では、ぼーっとすることもあるが、受け答えはしっかりしているので支援の必要がないと捉えられていたが・・・

見つける

【普段の状況】

- ・部活動がんばっているが、熱心に指導していた顧問が異動したことで、練習に遅刻する回数が増えてきた。

【課題】

- ・教師によって、態度を変えるようになっている。
- ・外国につながるのある家庭で、学習言語が身につけていないことで授業に集中できていない。

【肯定的に捉えるポイント（発見シートの活用）】

- ・健康的なストレス対処法を選ぶことができる。「発見ツール（中学校段階）」（教師のところに授業後によく質問に来る）



気づく

【「おやっ」と思ったこと】（担任）

- ・教員と目を合わせなくなった。
- ・授業では、他の生徒が集中している場面で、「にやつく」などの態度を見せるようになった。



【教職員のめざす方向】

- ・特定の教員と良好な関係を築くことができ、同世代に助けを求めることができる。
- ・自分の言動が他者に及ぼす影響を予測できる。

関わる

受容

生徒と関わりの深い担任が、本人が抱いてしまう「思い」について、受け止めます。

ポイント！

- ・まずは、生徒が感じている思いを十分に、受け止めます。
- ・決して「そんなこと思っ
てはいけない」と思いを
否定しないようにしま
す。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)

授業で使っている言葉が分からない。それに授業がどんどん進んでいく。

(担任)

授業で使われる言葉が分からなければ、じっとしているのはつらいよね。

(生徒)

何をしているのか理解できなくなってきました。

(担任)

頑張ろうと思っているのに、つらいよね。

信頼

丁寧に理由を聞き、肯定的な事実を伝え、支援する姿勢を積極的に示します。

ポイント！

- ・困り感を丁寧に聞きつつ、がんばっていたところを認めることで、より良くなりたい気持ちを見せ
ます。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)

知らない言葉が増えました。覚えられなくて分からなくなってきました。

(担任)

何が難しくなってきたのかな？

(生徒)

言葉を知らないと思われるのが嫌です。

(担任)

知らない言葉を覚えようと努力しているので
すね。その時、聞きなおしたりはしないのか
な。

(生徒)

そうしようかな。

(担任)

聞きなおすことで、言葉を知らないと思わ
れるのが嫌なんだね。では、知らない言葉が
出てきたときにどうすればよいか一緒に考え
ようよ。

発展的な関係づくり

「言葉を分かりたい」という生徒の思いをもとにして、肯定的な関わりを続けます。

これからの行動について考え、提案する

ポイント！

- ・生徒の頑張っているところを認めながら、生徒の困り感を改善するための方法を一緒に考えます。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



分からないことをそのままに
たくないです。



聞きにくい人が
います。



そうしてみよう
かな

数学の授業の後、よく
質問に来ているね。

分からないことをその
ままにしないのは素晴
らしいことだよ。言葉
も同じように聞くこと
もできるよ。

聞けないときは、後か
ら、先生に相談してほ
しいな

(担任)



励ます、見守る

ポイント！

- ・積極的な関わりをしていくことで、自発相談（自分から相談するようにしていく。）ができるような信頼関係をめざします。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



分からないこと
がありました。



相談をすれば、先
生は親身になって
考えてくれる。

聞きに来てくれたん
だね。

相談するのは先生だ
けでいいのかな。もっ
と、相談する人を増や
すのはどうかな？

(担任)



成長を認める

ポイント！

- ・自分自身で、解決しようとする意思を認め、さらによりよく生活していこうという気持ちをつくっていきます。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)

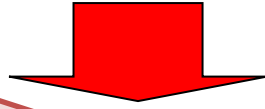


分からない言葉
が続いたので、友達に、聞いてみま
した。

それはいいね。近くに友
達に聞けるようになると、いざ困ったという時
とても役に立つね。

(担任)





自己肯定感の状況

【生徒の自己肯定感の状況】

- 好きな教科を足がかりにして、授業に前向きに取り組む回数も増えた。
- 自分の思いを言葉で伝える機会が増えたことで、周りからも理解されるようになってきた。

【教師の自己肯定感の状況】

- 担任も、関わりの難しさを感じていたが、支援が必要な部分が見えてきたことで、担任としてやるべき事が見えてきた。
- 生徒に対して少し距離感のある教師も関わり、生徒に対して集団の中での個別の評価・価値付けをしていくことで、担任の言葉が再構築されて生徒に伝わるようになった。

留意点

- ケース会を開催する場合は、当該生徒の「肯定的に捉えることができるポイント」を共通理解して、強みから働きかけをしていく。
- ケース会も、終了時間を決めて、必ず次のケース会までに、各自がすることを、具体的に決める。
- 大人を試すような行動、教師によって態度を変える時は、根気強く好ましい行動ではないことを伝える。その際、分かりやすい言葉で、好意的に伝える。



心のコントロールができるためには？！

本人の行動の裏にある弱さを受け止めつつ、場にふさわしい行動ができるよう支援するには？

見つける

【普段の状況】

- ・感受性が豊かで、明るく元気だが、行動は粗暴である。
- ・同性と集団で行動することを好み、指示を出すリーダー的な存在である。
- ・クラスの中で弱い立場にいる生徒に、目がいきがち。

【課題】

- ・日々の生活の中で、自分の将来に不安を感じており、自暴自棄になることが度々ある。

【肯定的に捉えるポイント（発見シートの活用）】

- ・同世代に助けを求めることができる「発見ツール（中学生程度）」



気づく

【「おやっ」と思ったこと】（担任・教科担任）

- ・親しい仲間が、頻繁に変わる。
- ・自分の文房具を大事に扱わない。持ち物への八つ当たりが見られる。
- ・制服（体操服）のそでや裾が、不自然に切れている。

【教職員の目指す方向】

- ・自分の言動が他者に及ぼす影響を予測できる。
- ・不安などを適切に表現・対処する重要性を理解できる。



関わる

受容

生徒と関わりの深い担任が、「おやっ」と気づいたことを教科担当と共有し、教科担当からも同じ情報を得ることで、生徒の状況を多面的に捉えます。

ポイント！

- ・ 日常的に、担任等が声をかけ、話を聞きます。
- ・ 生徒の人間関係の変化に気付いた担任がその状況を学年と共有します。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



うん！



最近、流行っていることの話とか、放課後一緒に遊んだりとか。

(担任)



最近、〇〇さん達と一緒にいると楽しそうだね。



一緒にいてどんなことが楽しいの。



へーっ、そうなんだ。一緒にいて楽しい人たちがいることはいいね。

信頼

生徒の行動が原因で友人が離れていってしまっていた状況。生徒の頑張っている姿を認めつつ、本音を引き出します。

生徒・担任・SCとの話し合い

ポイント！

- ・ 生徒の頑張っている姿は認めつつ、本音を引き出し、まずは担任が寄り添います。
- ・ 本人に問題の意識をもっているかを確認し、一緒に考える姿勢を示します。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



あの子たち、私に内緒で遊ぶ約束をしていた。私に嘘をついた。



もう、あの子たちとは遊ばない。



ん～。わからない。私が何かしたのかなあ。



私はこんなに頑張っているのに、結局、一人ぼっちだ。

(担任)



前は、△△さん達とも一緒にいたよね。



そうなんだね。それはショックだったね。



嘘つかれたら、もう遊びたなくなるよね。でも、どうしてうそついたんだろう。



そんなことはないよ。先生と一緒に考えてみよう。

発展的な関係づくり

間違った行動を修正するためには、行動の背景を受け止める。その行動を、第三者はどう捉えるか、視点を変えて考え、場にふさわしい行動が取れるように一緒に考えていきます。

問い掛け・提示

ポイント！

- ・方法を押しつけるのではなく、問いかけながら一緒に考えます。
- ・すぐに、成果を求めるのではなく、継続的な関わりを続けます。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



むかついた時に、怒鳴ってしまった。



嘘つかれた時、悪口言われてそうな時、仲間はすれになりそうな時……。不安になると、カッとなっちゃう。



自分自身をコントロールできればいいと思う。

(担任)



何か気づいたことはある？



どんな時にむかつくの？



自分のことがよく分かっているね。カッとならないために、自分にできることは何だろう。



それはいい考えだね。どうすれば自分自身をコントロールできるか一緒に考えていこう。

成長を認める

ポイント！

- ・すぐに、成果を求めるのではなく、継続的な関わりを続けます。
- ・行動を変えていくための方法として、専門家の知見を活用していくことも有効です。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



・ちょっと黙る。
・「なんで？」とか、「どうして？」とか聞く。
・その場を離れる。
・先生や誰かに自分の気持ちを伝える。



うまく言えるかな。やってみようと思うけど。

(SC)



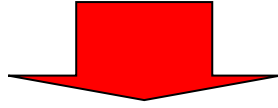
カッとなってしまった時は、どうしたらいいだろうね？



すごいね。いろいろ考えられるね。むかつく…じゃなくて、「気になるから教えて」と言うのが、相手にきちんと伝わる言葉だね。



大丈夫。やってみて。



自己肯定感の状況

【生徒の自己肯定感の状況】

- ・不安になるとカッとなってしまう、全てを「むかつく」という言葉で表現し、感情的な行動に出てしまって、周囲に嫌な雰囲気を発信している「自分」を認識することができた。
- ・一呼吸置いて、場にふさわしい言葉を使うことで、相手を不快にせず対応できるかもしれないという肯定感が得られた。
- ・感情を抱え込んでイライラするのではなく、内なる自分を表現して、心をコントロールすることができると知った。
- ・自分には、教師をはじめとした大人が関わって、見守ってくれていくことを知った。

【教師の自己肯定感の状況】

- ・生徒に頼られることで、肯定感が高まった。
- ・SCと連携することで、感情という抽象的なものを適切な言葉で表現する方法と効果を知り、行動が冷静になる手法が得られ、他の事例にも応用できそうだと肯定感が高まった。
- ・教職員がチームとして対応することで、孤立化しない。

留意点

- ・すぐに、成果を求める評価はしない。良好な変化が成果ではなく、生徒が自分の特色を知ることやその対策を考えようとする姿勢そのものが、成果である。
- ・また、生徒にとって、関わり続けてくれる大人がいることが認知されることも、成果である。
- ・教師側の成果としては、担任の「おやっ」とした気づきが、生徒の心の内面により添えたことである。
- ・そして、担任が一人で抱え込まず、チームで多面的な視点をもって関わられたことも成果である。



テストの点数や成績に固執する生徒にどうアプローチする？

テストの点数に強く固執し、適切な行動を選択できなくなった生徒。何をきっかけに関係をつくっていけば良いのか・・・？

見つける

【普段の状況】

- どの教科においても、熱心に授業に取り組んでいるが、結論を性急に求める傾向がある。
- 友人とのトラブルもなく、楽しそうに学校生活を送っている。

【課題】

- 定期試験や小テストにおける得点によって、人間の価値が決まると思い込んでいる。

【肯定的に捉えるポイント（発見シートの活用）】

- 自分と他者の考え方や価値観の違いを理解しはじめる。「発見シート（中学生程度）」
- 物事の工夫点や改善点を考えることができる。「発見シート（中学生程度）」

気づく

【「おやっ」と思ったこと】（教科担当）

- 定期試験や小テストの答案返却の際に、採点誤りの申し出が頻繁にあった。
- テストの誤答に加筆等をし、採点誤りを訴えていたことがわかった。

【教職員のめざす方向】

- 価値観は多様であることを示し、偏った価値観で自分自身を追い詰めることがないようにする。
- 目標達成に向けて課題解決を図ろうとする。

関わる

受容

生徒と関わりの深い担任が、教科担当から聞いた授業の様子について伝え、どうしてそうなっているのか状況を聞きます。

ポイント！

- ・ 表明された気持ちは、どのような価値観であっても、まずはありのままに受けとめます。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



テストでいい点をとることは何よりも大切なことです。



定期試験や小テストの点数については、これからも学習の目標にしていこうと思っています。

テストの採点が気になっているようですね。

(担任)



頑張ってきたことの結果だからね。



目標をもって取り組むことは大切だよ。



信頼

担任が、生徒に対しどうしてそのような行動になっているのかを丁寧に聞き、行動の原因を一緒に考えます。

ポイント！

- ・ テストの点数にこだわるということについても肯定的に理解します。
- ・ そのための取組を積極的に認めます。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



毎日、家で勉強しています。



最近、結果がついてこない感じがします。



そうです。ちょっとあせってうまくいきません。

良い点を取るために、どんなことに取り組んでいるの。

(担任)



一人で頑張っているんだね。最近はどうですか。



結果が出ないとあせってしまうね



発展的な関係づくり

周囲から自分の努力を励まされ、肯定的に捉えられていると感じることができるような関わりをします。

丁寧に理由を聞く

ポイント！

- ・ 社会には、多様な考え方があることを共有します。

ポイントをもとにした関わり例

(教科担当)

(生徒)



テストで高成績をとると家でほめられます。



よくあります。



自分で何とかしようと思ってしまう。

そうなんだ。期待されているんだね。一人で勉強していて分らないときはない。



分らないことは先生に聞いてもいいんだよ。



これからの行動について考え、提案する

ポイント！

- ・ 生徒の「良くなりたい、できるようになりたい」という思いを大切にしながら関わり、「この人なら」という思いを抱かせるようにします。

ポイントをもとにした関わり例

(担任)

(生徒)



意識してみます。

一人で学習する時は、具体的な目標を考えて、ノートに整理するといいよ



それは恥ずかしいと思ってしまう。。

自分では分らない時は、まわりを頼りにすることもできるよ。



それはそうだけど。

そうしたほうが、結果が良くなることもあるよ。



励ます、見守る

ポイント！

- ・ 生徒と積極的な関わりを継続し、頑張りを認めていきます。

ポイントをもとにした関わり例

(担任)

(生徒)



勉強がうまくいきません。

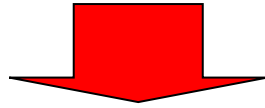
相談してくれてありがとう。一緒に考えよう



人に聞くことも大切だと思います。

そうだね、アドバイスも役に立つね。





自己肯定感の状況

【生徒の自己肯定感の状況】

- 学習に対し、前向きに取り組むようになった。
- 自己の状況を分析し、目標を見つけることが、少しずつ自己肯定感を高めることにつながっている。

【教師の自己肯定感の状況】

- 担任だけでなく教科担任や学年職員間等と連携することで、それぞれの教師の強みを発揮して指導することができるようになる。

留意点

- 生徒は一面的な価値観の中で生活をしているため、肯定的な関わりを継続することにより、多様な価値観に触れる機会を設定する。



付けたい力は 明確になっていますか？

評価に不満のある生徒。生徒の努力は認めながら、今後の学習に意欲的に取り組めるような仕掛けは？

※この実践事例は、教科指導におけるPDCAサイクルを基にした単元構成の「C」にあたります。

見つける

【普段の状況】

- ○○科以外の授業については、1学期と変わらない様子で頑張っている。
- 休み時間等では友人たちと明るく過ごしている。
- 部活動にも積極的に参加をしている

【課題】

- ○○科については、授業を受けることの意味を見いだせず、頑張っても無駄だと思っている。

【肯定的に捉えるポイント（発見シートの活用）】

- 自分と他者の考え方や価値観の違いを理解し始める。「発見シート（中学生程度）」
- 物事の工夫点や改善点を考えることができる。「発見シート（中学生程度）」



気づく

【「おやっ」と思ったこと】（教科担当）

- 2学期から○○科の授業において、無気力な様子が見られるようになった。
- 教科担当に近寄り、話をする機会が全く無くなった。



【教職員のめざす方向】

- 計画的に取り組むため、学習方法を示し、1学期のような学習意欲をもって授業に取り組めるようにする。

関わる

受容

生徒と関わりの深い担任が、教科担当から聞いた授業の様子について伝え、寄り添う姿勢を大切にして話を聞きます。

ポイント！

- ・生徒の様子の変化に気付いた教科担当が、担任に相談をし、状況を学年で共有し、関係性の深い担任が最初に対応します。
- ・まずは、生徒の気持ちを推測して返答をします。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



別に！



〇〇科の授業が嫌だ！



1学期は頑張ったつもりだったのに、評価が低かった。

(担任)

最近、〇〇科の授業で元気がないようだけど？



聞かれたら嫌なことだったんだね。だけど、教えてくれないかな？



嫌な教科がひとつでもあると、1日つらいよね。〇〇科の先生も心配していたよ。だけど、よく言ってくれたね。



理由は何かあるの？



信頼

担任が、生徒に対してどうしてそのような行動になっているのかを丁寧に聞き、行動の原因を一緒に考えます。

ポイント！

- ・生徒のできるようになりたいという気持ちに寄り添います。
- ・生徒の頑張っていたことを認めつつ、生徒のより良くなりたいという気持ちを担任、教科担当、学年職員等が理解し大切にしていきます。
- ・肯定的な動機を推測し、確認していきます。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



家でも頑張って勉強しているつもり。



どうしようかな・・・。

(担任)

評価には反映されていないかも知れないけど、君が熱心にノートをとったり、提出物をしっかり提出しているのは知っているよ。他にも頑張っていることあるんじゃないかな？



頑張りが評価にも反映できるといいよね。教科担当の先生に相談してみようよ？



発展的な関係づくり

生徒・担任・教科担当での話し合いを行い、生徒の考え方について理解し、継続的に関われるように支援を続けます。

生徒・担任・教科担当での話し合い

ポイント！

- ・努力を評価にしっかりと反映させるために、教科担当に相談します。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



頑張ったけど、だめでした。

(教科担当)

1学期のテストでは、ケアレスミスが多かったよね



だけど、意欲的には取り組んでいたよね。これからは復習を丁寧に取り組むといいのではないかな。



励ます、見守る

ポイント！

- ・生徒のできるようになりたいという気持ちに寄り添います。
- ・「この人となら」と生徒が感じるような関わりも重要です。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



確かにケアレスミスがありました。

(担任)

教科担当の先生のアドバイスはどうだった？



復習を大切にということだったね。復習をしっかりとしたらケアレスミスが減るのではないかな。



復習しているつもりなのですが。

成長を認める

ポイント！

- ・日々の頑張りをしっかりと評価し伝えていく。
- ・全職員で情報を共有し、継続的に関わります。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



復習の仕方を変えて頑張っています。

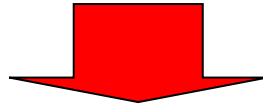
(担任)

結果につながるように、頑張っているようだね。



〇〇先生も力が伸びていると言って、喜んでたよ。





自己肯定感の状況

【生徒の自己肯定感の状況】

- ・教科担当に対する不信も、徐々に薄れている。教科担当や担任の肯定的な受け止めに
より、授業にも前向きに取り組めるようになっていく。

【教師の自己肯定感の状況】

- ・生徒の取組への変化に教科担当が早く気づき、担任と協力して対応をした。生徒は、この対応により、自分のことを考えてもらっていると感じた。また、教員は授業研究を進めることにより、生徒の授業に対する取組の変化を感じはじめた。

留意点

【授業改善について】

- ・全教員で教科指導における評価方法について研修を行います。
- ・教師が授業における付けたい力や評価方法・時期を明確にすることで、生徒たちが見通しをもちながら取り組むことができるようにします。
- ・明確な評価方法や評価規準により、生徒が現在の自分の取組を振り返ることができるようにします。
- ・肯定的な関わりを継続することで、評価をもとに、次の学習へ向かう意欲を高めることができるようにします。



授業を振り返り、次の目標をもたせていますか？

学習の意味を見出せない生徒。評価規準にとらわれずに、その生徒にとって学習の意味をもたせるための働きかけは？

※この実践事例は、教科指導におけるPDCAサイクルを基にした単元構成の「A」にあたります。

見つける

【普段の状況】

- ・授業では特に目立つわけではなく、淡々と学習に取り組んでいる。
- ・欠席も無く部活動にも参加し、友人も多い。

【課題】

- ・自分の学習に意味をもつことができず、学習してきたことによる自己の成長を感じていない。

【肯定的に捉えるポイント（発見シートの活用）】

- ・物事の工夫点や改善点を考えることができる「発見シート（中学生程度）」
- ・文献やインターネットから必要な情報を探ることができる
「発見シート（中学生程度）」



気づく

【「おやっ」と思ったこと】（教科担当）

- ・単元の終末に「この勉強の意味がわかりません」という発言がある。
- ・振り返る活動に興味をもたず、記述したり話したりしていない。

【教職員のめざす方向】

- ・身に付けた力を発揮する具体的な場面を想定して、活用してみようとする意欲を高める。



関わる

受容

授業に意味を見出せない生徒の発言を、教科担当が受け入れて、生徒の気持ちを沈静化させます。

ポイント！

- ・ 生徒の発言を、教科担当は先ずは受け入れます。
- ・ 「意味を見つけ出そう」としていた気持ちに注目します。
- ・ 生徒の発言を受けて、自らの授業についても振り返ります。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



この勉強が何の役に立つのか、意味がわかりません。

(教科担当)



何のためにやっているのかわからない中で、頑張るのはつらいよね。何時間も考えていたんだね。先生も工夫しないといけないね。

信頼

教科担当は、生徒に対して学習内容の理解が高まるように、声かけをするとともに、自らの授業の改善に取り組みます。

ポイント！

- ・ 親身な姿勢が信頼関係のスタートとなります。
- ・ 生徒の頑張りを見つけて、寄り添うことが大切です。
- ・ 生徒のもつ感情を否定せず、「見捨てる」ことなく、「成長の可能性」を模索し続けます。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



何のためにしているのかと、いつも考えてしまう。

(教科担当)



勉強していることの意味を見つけ出そうとしているんだね。



単に覚えることだったり、覚える目的が分からなかったりすると、やる気がでないんです。



すごく大切なことだね。自分もよく考えるよ。



先生も伝え方を工夫するね。一緒に頑張っていこう。



単元の導入で、子どもたちの生活場面で生きることを実感させたり、想像させたりすることで、意欲を高めることができそうだ。単純に記憶させるのではなく、どのようにすればうまくいくのかを考えさせることで、主体的に学習に参加しそうだ。

発展的な関係づくり

生徒・担任・教科担当での話し合いを行い、生徒の考え方について理解し、継続的に関われるように支援を続けます。

励ます・見守る

ポイント！

- ・生徒のできるようになりたいという気持ちに寄り添います。
- ・「この人となら」と生徒が感じるような関わりも重要です。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



生活の中のどのような場面で役に立ちそうなのかを考えながら勉強してみた。



これからも続けようと思います。

(担任)



考えながら取り組むことは大切だね。



先生も応援しているよ

成長を認める

ポイント！

- ・日々の頑張りをしっかりと評価し伝えていきます。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



学習の成果としての作品だけでなく、友達と意見交換することを大切にして学習を進めてみた。

(教科担任)



最近の授業はどうか？



考えながら学習を進めているのがよくわかるの。



教師が覚えさせたいことを大切にする授業ではなく、生徒が課題に取り組む過程で、学習目標を実現することを大切にする授業展開を考えよう。

教師自身の指導方法や単元構想を見直す

ポイント！

- ・教師は、毎時間授業についても振り返りをします。

ポイントをもとにした関わり例

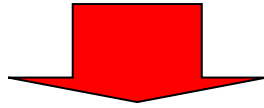
(生徒)



学習を始めるときに、どのような手順で学習を進めていけば良いのかを考える時間があり、自分にとっての目標を設定することができた。

教師が教えるだけでなく、子どもたちが自ら考えて、プロセスの中で能力育成を図る単元にしてみよう。





自己肯定感の状況

【生徒の自己肯定感の状況】

- 教科担当に対する不信も、徐々に薄れている。教科担当や担任の肯定的な受け止めにより、授業にも前向きに取り組めるようになっていく。

【教師の自己肯定感の状況】

- 生徒と肯定的な関わりを続けることにより、生徒からの信頼を得ることができた。また、教員が授業研究を進めることにより、生徒の授業に対する取組の変化を感じ始めた。

留意点

【授業改善について】

- 生徒の実態に応じて指導方法を変更したり、修正したりするなど、学習目標に沿って工夫した対応をする。
- 導入では、生徒の気づきを促す。
- 単元の振り返りの時間を確保し、学習過程を大切にしながら、発言の意味を検討する。



つまずきを受け止めるには？

初めての定期テストで自信をなくしてしまった生徒。「他者から認められているところ」を意識（自覚）させることで、自己の目標の立て方を見直していきます。

見つける

【普段の状況】

- ・いつも落ち着いて授業を受けており、部活動（サッカー部）の練習には休まず参加し、まじめに取り組んでいる。
- ・何事も、こつこつ努力することを怠らない性格である。

【課題】

- ・何か一つのトラブルがあると落ち込み、他のことにも影響してしまう。
- ・仲間と協調して取り組むことがあまり得意ではない。

【肯定的に捉えるポイント（発見シートの活用）】

- ・自分と他者の共通点・相違点を考えることができる。



気づく

【「おやっ」と思ったこと】（教科担当）

- ・入学後、初めての定期試験で、自分が思ったほどできていないことに自信をなくしかけている。

【教職員の目指す方向】

- ・自己意識をもたせる。（適切な自尊感情の維持）
- ・失敗体験を前向きに捉えることができるようにしていく。（ストレスへの対処）



関わる

受容

テストで、思うような結果が得られずに、落ち込んでいる生徒の気持ちをありのままに受け止めます。

ポイント！

- ・テストの結果で落ち込んでいる生徒の気持ちを受け止めます。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



試験が思ったよりできなくて、ショックでした。



すべてに自信がなくなりました。



分からないところも自分で理解しようとしたのですが、今回は上手くいきませんでした。

(担任)



真っ暗な気持ちになってしまうね。



勉強以外のことにも、自信をなくしてしまったんですね。

信頼

生徒の自立したい意欲を積極的に認めていることを表明することから、状況を改善する関わりを始めます。

ポイント！

- ・生徒が「自立したい」と思っている気持ちを支え、前に進みだすきっかけとなる対話を心がけます。
- ・前向きに捉える考え方など、スクールカウンセラーなどの専門職からアドバイスを受け、適切な助言ができるようになります。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



何でも、まず自分でやってみたいのです。



でも上手くいきません。



上手くいかなくても？

(担任)



自分一人で頑張ろうとしたのですね。



自分自身でできるようになりたいのですね。



結果的にうまくいかないことはあるよ。でも、先生たちは、あなたの意思を評価しているよ。



今はそうかもしれないね。結果ではなく、自分でやろうという意思をもち続けることが大切だと思いますよ。

発展的な関係づくり

生徒・担任・教科担当での話し合いを行い、生徒の考え方について理解し、継続的に関われるように支援を続けます。

これからの行動について考え、提案する

ポイント！

- ・教科担当や部活動顧問など、生徒に関わっている教員からのアドバイスなどを参考にして、肯定的に捉えるための関わりをつくっていきます。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



部員やチームに迷惑をかけたくない。それが貢献だと思う。



助けられると申し訳ない気持ちが強くなります。



あります。でもいい加減な人にはあまりしたくないです。



必要な時は頼っていても良いんだ。

(担任)
顧問の先生や部員たちも「君のことをとても努力家だ」と言っていましたよ。



(部活顧問)

その気持ちも十分伝わっていると思います。お互い助け合うことは、迷惑なことなのかな？



助けることは？



その人の振る舞いだよね。まわりも同じだよ。努力した上で、助けを求めることは、恥ずかしいことではないよ。



励ます、見守る、成長を認める

ポイント！

- ・積極的に声をかけ、担任も生徒の成長を願っている気持ちを定期的に伝えるようにします。
- ・成長した部分（しようと取り組んでいる部分）に気づき、認めるようにします。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



友達に相談するのも良いことがわかりました。恥ずかしさが少し減りました。



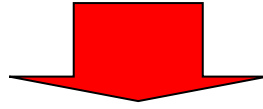
だけど、なかなか自分のことを話すのは難しいね。

(担任)
友達と楽しそうにしているね。



先生も恥ずかしくて、できないこともあるよ。先生に話してくれるかな。





自己肯定感の状況

【自己肯定感の状況】

- 友達と相談し合うことで、自分の良さに気づくことができた。
- 教師からの継続的で肯定的な声かけによって、自分の価値を少しずつ自覚するようになった。

【教師の自己肯定感の状況】

- 学級や部活動での生徒同士の人間関係がより良くなり、授業や活動が円滑に進んでいる。

留意点

- 教科担当者会議などで、活用を図る。
- 家庭にも連絡をとり、生徒が悩んでいる様子をつかむようにする。



進路選択に前向きになれるよう、 どのように関わりますか？

進路選択に投げやりな気持ちになっている生徒。進路選択について前向きな気持ちになれるような声かけは？

見つける

【普段の状況】

- ・進路に関する面談で、自分の希望を聞いても答えられない。
- ・1年生の時は運動部に所属していたが、2年生になって退部した。
- ・部活動をやめてから、アルバイトを始め、アルバイト先で頼りにされている。

【課題】

- ・成績が下降ぎみであることや、部活動を途中で退部したことで、自信をなくし、進路選択について投げやりな気持ちになっている。

【肯定的に捉えるポイント（発見シートの活用）】

- ・グループの中で協力して作業できる。「発見シート（中学生程度）」
- ・他者の気持ちに寄り添った声かけができる。「発見シート（高校生程度）」



気づく

【「おやっ」と思ったこと】（教科担当）

- ・最近、遅刻が増えた。
- ・成績は中ぐらいだが、最近、授業にあまり集中できないため成績が下降ぎみである。



【教職員のめざす方向】

- ・進路の方向性をある程度明確にできるようにする。

関わる

受容

生徒と関わりの深い担任が、生徒から打ち明けられた話を聞き取り、現状に寄り添います。

ポイント！

- ・ 表明された気持ちをまず尊重します。
- ・ 生徒の発した言葉について評価するのではなく、生徒の気持ちを受け止めるように対話します。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)

アルバイトで忙しいから、疲れて授業中眠い。



アルバイト先の店長から「君がいないとお店がまわらない」と言われている。



将来、特にやりたいこともないから、成績が下がっても別に構わないや。

(担任)

アルバイトを頑張っているんだね。きっと職場で頼りにされているんだね。



そんな風に言われているなんて、凄いいね。



信頼

生徒の言葉に表れない表情等から、生徒の発言に至った背景を探り、共感的な姿勢で生徒と対話します。

ポイント！

- ・ 担任の親身な姿勢が信頼関係のスタートとなる。
- ・ 生徒の「将来を大切にしたい」という動機をきっかけにします。
- ・ 進路を決められないことを指摘するのではなく、何とかしたいという生徒の気持ちを認めます。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)

そうかもしれない。



自分の将来のことだからな。成績が落ちるのはやっぱり嫌だ。



周りの友達はやりたいことがあるみたいだけど、自分は何をしていいかわからない。自分だけが遅れている気になる。



(担任)

学校の勉強に興味がなくなってきたの？。



興味がなくなってきたことを問題と思っているようにみえるけど。



将来のことを大事に考えているんですね。それで、「勉強が大事だ」と思っているんですね。



発展的な関係づくり

生徒と担任で話し合いを行い、生徒に動機づけを与える関わりをする。

これからの行動について考え、提案する

ポイント！

- ・生徒の強みを認めながら、進路の方向性を考えるきっかけをつくっていく。

ポイントをもとにした関わり例

(教科担当)

(生徒)

うーん、よくわからないけど友達は多い方かも。

友達が元気な時には、自分から声をかけているよね。アルバイト先でも、仲間とうまく関係をつくれているんじゃないかな。

人とコミュニケーションを取るのが上手だから、人と関わる仕事が向いているかもしれないね。

成長を認める

ポイント！

- ・すぐに、結論を求めないようにします。継続的な関わりの中で、生徒がじっくりと将来を見通すことができるように働きかけます。

ポイントをもとにした関わり例

(担任)

(生徒)

そんな風に考えたことはなかったけれど、そう言われると嬉しい。

あなたの良い点を友達から聞きました。自分が気づいていない、良いところがたくさんあるのではないかな。

(生徒)

すぐには見つけれそうにないけど、そうしてみる。

将来の不安は誰にでもあります。困ったら相談してください。

励ます、見守る

ポイント！

- ・日々の頑張り、前向きな気持ちへの変化をしっかりと認め、伝えていく。

ポイントをもとにした関わり例

(担任)

(生徒)

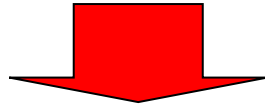
そうかな、先生と話を少しだけ前向きになった気がする。

最近、遅刻が減ってきたね。国語の先生が「授業中に集中できている」と言っていましたよ。

(生徒)

でも今日、また遅刻してしまった。

でも、以前よりはずっと遅刻が減っているよ。無理しないでね。



自己肯定感の状況

【生徒の自己肯定感の状況】

- ・自分に強みがあることに気づき、進路選択について前向きな気持ちをもてるようになった。

【教師の自己肯定感の状況】

- ・生徒自らが最近の状況を打ち明け、担任が寄り添う姿勢で対応した。生徒は、この対応に、自分のことを考えてくれていると感じた。担任が継続して生徒への声かけ・励ましを行うことにより、進路選択について前向きな気持ちをもてるようになったと感じるようになった。

留意点

【生徒への声かけについて】

- ・生徒自身が変わりたいと思っていることを認め、小さな変化でも肯定的に評価する。
- ・一度に大きな変化を要求しない。
- ・教科担当に生徒の今の状況や課題、担任の見立てを伝えることで、教科担当から肯定的な声かけができるようにする。
- ・教員の肯定的な声かけによって、自分の努力が認められていると感じ、自己肯定感が高まってくる。



イライラを抑えたい生徒に、どのように関わりますか？

些細なことでカッとなってしまう生徒。生徒の努力を肯定的に受け止め、生徒の自己肯定感を高めるための声かけは？

見つける

【普段の状況】

- ・先生に授業態度を注意されると、反抗したり、教室から飛び出したりしてしまう。
- ・イライラしやすく、些細なことでカッとなるため、他の生徒とトラブルになる。
- ・少し落ち着くと、日頃から関係性がよい教師とは話ができる。

【課題】

- ・勉強に自信がない。自信のなさを隠そうとして、攻撃的な振る舞いをする。

【肯定的に捉えるポイント（発見シートの活用）】

- ・自分と他者の共通点・相違点を考えることができる。「発見シート（中学生程度）」

気づく

【「おやっ」と思ったこと】（教科担当）

- ・夏休み明けの〇〇の授業において、教科担当に注意され、反抗して教室から飛び出してしまった。

【教職員の目指す方向】

- ・健康的なストレス対処法を選ぶことができる。
- ・自分の言動が他者に及ぼす影響を予測できる。
- ・不安などを適切に表現・対処できる。

関わる

受容

生徒と関わりの深い担任が、教室を飛び出した時の生徒の気持ちを受け止め、生徒を落ち着かせる。

ポイント！

- ・生徒の様子の変化に気づいた教科担当が、担任に相談をし、関係性の深い担任が最初に対応します。
- ・まずは、生徒の行動に至った気持ちについて、評価せず、ありのままを受けとめます。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



授業中に、スマホを見ていて注意された。他の生徒もやっていたけれど、いつも自分ばかり注意される。



先週は、先生に「うるせえな」って言ったら、さらに怒られた。今回は飛び出した。

(担任)



〇〇先生の授業中に、何かあったのかな。



それは、不公平に感じるよね。



その場を回避するために飛び出したのですね。

信頼

担任が、生徒に対してどうしてそのような行動をしたのかを丁寧に聞き、生徒の気持ちや状況に対して理解を示し、共感します。

生徒・担任・SCとの話し合い

ポイント！

- ・まずは丁寧に理由を聞き、生徒の言い分を受け入れる姿勢をもちます。
- ・親身な姿勢が信頼関係のスタートとなります。
- ・生徒の考えを受け入れつつ、今後の改善につながる関わりができるよう、信頼関係を築いていきます。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



力となった気持ちを抑えられたけど・・・。



みんなの前で怒られるのも恥ずかしいけど、教室に戻るのも恥ずかしかった。



そう。

(担任)



どんな気持ちだった。



その後はどうだった。



気持ちを抑えることも大切だし、恥ずかしいことにならないようにしたいと考えているのかな。



その方法を一緒に考えさせてくれないかな

発展的な関係づくり

生徒と担任が話し合いを行い、これからの行動を提案する。

問いかけ・提示

ポイント！

- ・ 生徒の頑張りを認めつつ、生徒のより良くなりたいという気持ちを担任、教科担当、学年職員等が理解し大切にしていく。
- ・ 日々の頑張りをしっかりと評価し伝えていく。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



カッとなっている時は考えられないけど、後で自分がやりすぎたと落ち込むこともある。



それならできるかもしれない。試してみよう。

(担任)



落ち着いている時には、自分の気持ちをコントロールできるね。



落ち込む前に、うまくコントロールできるといいね。

(SC)



怒りの感情を抑える方法を一緒に考えていきましょう。



どうしても、抑えられなくなる時は、先生に話してください。

成長を認める

ポイント！

- ・ 生徒の強みを生かす働きかけについて、職員間で共通理解を得る。
- ・ 授業以外の場でも、できるだけ多くの教員が声かけができるよう協力を求める。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



一旦深呼吸して落ち着くようにしているんだ。

(担任)



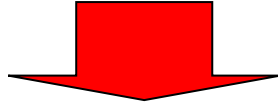
最近、授業中に教室から飛び出すことがなくなったね。



すごいね。自分なりの気持ちが落ち着く方法を見つけられたね。

(SC)





自己肯定感の状況

【生徒の自己肯定感の状況】

- ・イライラすることはあるが、爆発する前に気持ちのコントロールをしようとしている。

【教師の自己肯定感の状況】

- ・生徒の取り組み状況の変化を教科担当が担任に伝え、担任がすばやく対応した。生徒は、この対応に、自分のことを考えてくれていると感じた。担任が継続して生徒への声かけ・励ましを行うことにより、生徒の授業での取り組みや友人との関係づくりの変化を感じるようになった。

留意点

- ・生徒自身が変わりたいと思っていることを認め、小さな変化でも肯定的に評価する。
- ・一度に大きな変化を要求しない。
- ・学年会等で共通理解をして、多くの教員が肯定的な声かけができるようにする。
- ・教員の肯定的な声かけによって、自分の努力が認められていると感じ、自己肯定感が高まってくる。



発表に抵抗感をもっている生徒に、どのように関わればよいでしょうか？

発表に抵抗感をもっている生徒。その状況に至る原因と必要な関わりとは？

見つける

【普段の状況】

- ・不安や緊張が強く、限られた人や場面でしかうまく話すことができない。
- ・コミュニケーションのきっかけをうまくつくることができない。
- ・自分の思いや考えを言葉にうまく表すことができない。

【課題】

- ・不安を感じると硬くなり何も話さない状況になる。

【肯定的に捉えるポイント（発見シートの活用）】

- ・物事の工夫点や改善点を考えることができる。「発見シート（中学生程度）」



気づく

【「おやっ」と思ったこと】（先生）

- ・交流会で、他校の生徒を前に発表することを、伝えたところ、ひとりの生徒が何も話せない状況になった。



【教職員のめざす方向】

- ・教師が関わり方や環境を整えることで、発表できるようにしていく。
- ・目標を細かく分け、一つずつ達成することで関わりをつくっていく。

関わる

受容

知らない人の前で発表することを苦手としている生徒の気持ちを、全担任が受け入れます。

ポイント！

- ・生徒の気持ちを全担任が受け入れます。
- ・無理に会話を引き出すのではなく、あくまでも生徒の気持ちを考えた関わりをします。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒) ……。

(生徒) ……。

(担任A) どうしたの？

(担任B) 発表したくないんだね。

(担任C) 知らない人の前で話すのは、緊張するね。

信頼

発表に対する生徒の気持ち理由を探り共感していきます。

ポイント！

- ・生徒が、発表できなかった理由を、担任間で連携しながら聞き取り、今後どのような関わりが必要かを探り、明確にしていきます。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒) 恥ずかしい。

(生徒) 練習したから。

(生徒) あと、絵の発表だったから。

(担任A) 知らない子の前で発表すると、どんな気持ちになるかな。

(担任B) 知らない人の前では恥ずかしいね。でも、この前上手に発表できたね

(担任B) 発表のイメージが分かっていると安心だね。

(担任B) 得意なもので発表できると楽しいね。

発展的な関係づくり

基本的な生活スキルが身に付くように、行動目標を細かく設定します。さらに、適切なコミュニケーションがとれるよう、トレーニングなどを取り入れながら関わっていきます。

チームで検討する

ポイント！

- ・チームで協働し、それぞれがどのように関わったか、情報共有していくことが大切です。

ポイントをもとにした関わり例

(担任A)



発表のイメージをしっ
かりもてるよう支援し
ていきたいです。



発表の時、生徒が困っ
たら支援できるよう
にします。

(担任B)



絵が得意な生徒
だから、絵を使っ
て発表できると
いいです。

(専門職)



リハーサルなど
して、見通しをも
たせることも大
切です。

生徒に合わせた関わりを考える

ポイント！

- ・保護者と連携を図り支援していきます。
- ・本人の障がいの状態などへの対応は、担任や専門職と連携して対応を考えていきます。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



漫画を描いて発表し
たいな。



発表したくなって
きた。

(保護者)



家でも、発表の練習
をしています。

(担任A)



好きな漫画を描い
てみよう。みんな
に見せてほしいな。

(担任B)



君の絵は素敵だか
らやってみよう
よ。

(専門職)



本人の緊張が強
くなる部分は、はじめ
から担任がフォロ
ーするのも良いで

励ます、見守る

ポイント！

- ・生徒が発表を肯定的に捉えることができるように声をかけ、支援していきます。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



発表することが決
まった。当日楽し
みだね。この漫画
どうかな。



あー、でも、やっ
ぱり発表が苦手
だな。

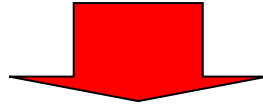
(担任 A)



すごいね。先生も発
表が楽しみだな。



出だしは、先生と
一緒にやってみ
ようよ。



自己肯定感の状況

【生徒の自己肯定感の状況】

- 発表の見通しをもち、イメージが固まることで自信につながり、自分から進んで発表することができる。

【教師の自己肯定感の状況】

- 丁寧に関わることで、生徒の気持ちを引き出すことができるようになる。
- 教師間の協力体制が強まり、授業が活性化する

留意点

- 日常から、生徒一人ひとりにあった関わり方や環境を整えることができるようにしていく。
- 担任を含めて、その生徒に関わる教師が、同じ方針のもとにその生徒の指導にあたるようにする。



家庭環境の課題を抱える生徒への支援

家庭環境が要因で不登校である生徒。スクールソーシャルワーカー（SSW）と連携しながら、生徒の学校生活の再開をめざすための働きかけとは？

見つける

【普段の状況】

- ・母子家庭【家族構成 母、本人（高校2年）、妹（中学生）】
- ・母は就労し、家事や妹の世話はその生徒が行っている様子である。妹の状況は不明である。
- ・学校への納付金等を滞納しがちである。
- ・担任が母親に電話をしても連絡をとれない状況が続いている。
- ・大学への進学希望を口にしたこともあるが、学習は遅れがちである。

【課題】

- ・保健室に行き、不眠や食欲不振を訴えることもあった。家庭のことはあまり話したがない。

【肯定的に捉えるポイント】

- ・自分の進路の方向性をある程度明確にできる（高校生程度）
- ・「進路希望を叶えてあげたい」という、母親の強い願いなど



見つける

【「おやっ」と思ったこと】

- ・連休明けから不登校傾向となった。
- ・家庭環境の問題もあるようだ。

【目指す方向】

- ・生徒が前向きに自分の生活を捉えることができるようにし、学校生活の再開を見据えた関わりをSSWと連携して行う。

関わる

受容

不登校になった家庭を SSW とともに訪問します。生徒と保護者の気持ちを受け止めていきます。

ポイント！

- ・担任は、生徒の話を丁寧に聞き、気持ちをありのままに受け入れる姿勢をもちます。
- ・SSWの専門性を伝え、同席することの同意を家族から得るようにします。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



家の手伝いが忙しくて学校に行けない。



休んでいたの
で、学校も少し
行きづらくなっ
ています。

(母親)



家事も下の子の
面倒もほとんど
娘に任せきりで
す。

最近、どうですか

(担任)



それは大変だね、



(SSW)

今日の訪問に同席しても
よろしいですか。



福祉的な面から解決への
お手伝いをする仕事を
しています。



信頼

生徒と保護者の家庭の状況を聞き、生活を改善したいという思いを共有します。

ポイント！

- ・担任が主となり、生徒の自分の進路を前向きに考えたいという気持ちをもとに対話を進めます。
- ・SSWと連携した関わりを視野に入れながら、母親の意向も聞き取ります。

ポイントをもとにした関わり例

(生徒)



妹の世話やみんな
のご飯を作ったり
しています。



私がやらないと、
お母さんが大変に
なるし



学校に行ったほう
がいいかなと思う
時はあるけど

(母親)



娘を学校に行かせたいと思っています。

家では、どんな手伝
いをしているので
すか。

(担任)



家族のことを大切
にしているのです
ね。



ほかのことを考え
る時間はないね。



自分のことも心配
になるんだね。



発展的な関係づくり

生徒や保護者のストレングス（自分の進路を前向きに考えたい、進路希望を叶えてあげたいという強い願いをもっていること）などに焦点をあて、エンパワメントを行います。

ケース会議

ポイント！

- ・ ケース会議を開き、教育相談コーディネーター、SSWなどとともに、連携して支援にあたります。
- ・ それぞれの専門性を尊重していきます。

ポイントをもとにした関わり例

（コーディネーター）



経済面での心配や進路への不安が高まり体調を崩すなど、悪循環を招き、不登校に至ったと考えます。生徒本人と家庭を総合的に支援する体制が必要です。

（担任）



生徒の気持ちや希望を表現できるように、今後も関係づくりに努めていきます。

不登校の要因と思われる点を整理し、解決方法を探っていきます。（SSW）



励ます、見守る

ポイント！

- ・ 生徒の前向きな気持ちを後押しできるように支援を続けます。
- ・ SSWが中心となり、家庭の課題の改善を図っていきます。

ポイントをもとにした関わり例

（生徒）



学校が、身近に感じられる。



学校で私の話もしているんだ。

（母親）



娘が希望する進路に向かってほしいです。



よろしくお願いします。

学校の様子を連絡するね。

（担任）



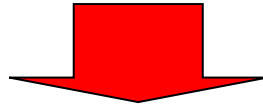
友達が、「メールの返事がよく返ってくるようになった」と喜んでいたよ。



（SSW）

経済的な基盤を安定させるためのサポートに、取り組んでまいりたいと思います。





自己肯定感の状況

【家庭の自己肯定感の状況】

- 学校から母への肯定的評価やサービスにつなぐ具体的サポートによって、母自身の自己肯定感の高まりや家庭基盤の安定につながった。
- 母の変化に伴い母子の会話が増え、母から生徒への肯定的な言葉かけやねぎらいの場面が増えた。
- 進路については、生徒から母へ大学進学への希望が語られる場面があったとのエピソードも聞かれ、生活の安定や生徒に対する母の変化がA子の自己肯定感の高まりや将来への希望につながったと思われる。

【自己肯定感の状況】

- SSWが学校と家庭との仲介機能や母親の代弁機能を果たすことで、学校が生徒の置かれた家庭状況を理解し、母との協働関係の中で生徒をサポートする体制が構築できた。

留意点

【SSWの関わりとして大切なこと】

- 管理職からの指示のもと、SSWは校内ケース会議に出席する。
- 福祉の専門職として、教師・生徒・保護者との協力関係づくりに努めます。
- 相談者の苦労や努力に敬意を払うとともに十分にねぎらうことを忘れない。

かながわの全ての子ども・若者の未来を信じて

かながわの子ども・若者支援プログラム研究会

自己肯定感を高めるための支援プログラム

平成 29 年 5 月

神奈川県教育委員会

いのちの授業

神奈川県では、「いのち」や互いに支え合って生きることを大切にする心などを育む取組を、「いのちの授業」として推進しています。